

# Challenge

## 女性のチャレンジ事例集

### 第4巻

私たちのチャレンジの軌跡

◇市町長インタビュー

◇県内のチャレンジ支援機関情報

---

### 女性のチャレンジ事例集 第4巻

平成23年3月

三重県 生活・文化部 男女共同参画・NPO室

〒514-8570 三重県津市広明町13番地

TEL 059-224-2225

FAX 059-224-3069

E-mail iris@pref.mie.jp

HP <http://www.pref.mie.lg.jp/IRIS/HP/>

---

織り手、作り手、買い手がうまく  
つながっていきける『仕組み』を創りたい



LLP 手づくり文化村  
手づくり文化コーディネーター  
かたやま まさこ  
片山 雅子さん  
三重県員弁郡東員町

プロフィール

- ・1965年生まれ
- ・群馬県出身
- ・神奈川県にてマーケティングリサーチの会社に勤務
- ・結婚を機に三重県へ
- ・2児の母
- ・手づくり文化村の手づくり文化コーディネーター

※注

LLP(有限責任事業組合) 手づくり文化村

所在地：四日市市まきの木台 1-153-1  
TEL：059-339-1134  
E-mail：isinet@amber.plala.or.jp

※注 LLPとは？

平成17年8月1日に施行された「有限責任事業組合契約に関する法律」に基づいて創設された新たな活動事業体のこと。特徴としては、構成員全員が有限責任を持ち、損益や権限の分配を自由に決めることができるなど内部自治が徹底し、構成員課税(パススルー課税)の適用を受けることなどが有限責任事業組合にする最大のメリット。LLPの設立には最低二人の個人または法人が必要。

キーワードは「手づくり」

「LLP手づくり文化村」を3年前に立ち上げた片山さん。文化村では、手作り作家の方々の作品を預かり、イベントを企画し展示販売等を行っている。「ひとりのネットワークをみんなのネットワークに！」がモットー。お互いに情報交換しながら、作る人、見たい人、参加したい人、欲しい人など「手づくり」を楽しみたい人たちの輪が広がっています。片山さんは、その中でコーディネーターとしてさまざまな企画に携わり、日々奔走中です。

結婚、出産、そして・・・転機！

片山さんが結婚とほぼ同時に夫の転勤で三重県へ移り住んで17年。結婚前はマーケティングリサーチの会社に勤務していました。三重県に来た当初はその会社の業務を続けます。このまま子どもを持たず仕事をしていきたいと思っていた矢先に妊娠。それを機に仕事を辞め、専業主婦に。2年後には第2子を授かり、子育てに忙しい日々を送ります。

その当時は、「子供を預けることに抵抗がありました。でも、心のどこかに社会から取り残されていくような不安も抱えていました」。そんな折、夫の仕事の都合で家族でアメリカに行くことになりました。「英会話を学ばなければならない。アメリカという社会の仕組みも知る必要があり、自分のことではいっばいっばい。子どもを預けざるを得ませんでした。その時から子どもを預けることへのハードルが低くなったように思います。今思えば、アメリカ生活が自分の転機となりました」。

帰国後すぐに保育園探しを始めた片山さん。「何でもいい。とにかく社会に出たかった」と振り返ります。当時、子どもは3歳と5歳。最初からフルタイムの仕事は難しそうだったので、リハビリのつもりで、たまたまハローワークで見つけたのが、桑名にある「手づくり屋」というお店の仕事でした。「手づくり屋」は看板製作や、手作り作家(当時100名ほどいた)の作品を委託販売するお店でした。もともと自分も手作り好きだった片山さん。さまざまな作家の作品にふれ、手作りの素晴らしさを改めて実感します。



手づくり文化村『さをり、裂き織りプロジェクト』

その後「手づくり屋」は閉店することとなりますが、「このままでは終われない」と、当時店長だった川合さんと、「LLP手づくり文化村」を立ち上げます。「作り手がこんなにたくさんいるのに、このまま終わってしまうのはもったいないと思ったんです」。

それからは文化村のコーディネーターとして、イベントを企画し、作家から預かった作品の展示販売をしたり、手作り体験の出張講座などを開いたり、忙しく動き回っています。

そのようなさまざまな活動の中、片山さんが文化村立ち上げ当初から力を入れているのが、『さをり、裂き織りプロジェクト』です。さまざまな色の綿、シルク、ウール麻等が織り込まれた布。初めて「さをり織り」を見た時には衝撃を受けたそうです。「縁も織り幅もガタガタで揃っていないし、色の組み合わせもビックリするようなどころもあるけれど、すごく温かみがあり個性的。そんなところがたまらないなあと思うんです」。

片山さんは、福祉作業所に山積みになっている「さをり織り」に目を付けます。「このまま眠らせておくのはもったいない。売り出し方によってはもっともっと需要があるはず。福祉作業所のお祭りなんかだと来る人も限られてしまうし、もっと広く知ってもらえたら嬉しい。同時に少しでも作業所のプラスになれば…」と、『さをりプロジェクト』を発案。

いくつかの作業所や知っている作家たちに呼びかけて座談会を開き、織り手、作り手、買い手の意見を収集し、同時に作家に「さをり」を預け製品化を進めました。もともと味のある布、作家たちの手によって反物として眠っていたものが、次々とバッグ、マフラー、ポーチ、洋服など素敵な作品に仕上がっていきます。作家たちも織り手のことを思い、どんな切れ端も無駄なく使おうと、いろんなアイデアで製品化にのぞんでいます。年に2回ほど、北勢地域で開催される「さをり展」も好評。「さをり」の手作りキットや端切れパック等も大人気。手作り材料としての可能性も実感できました。

「さをりプロジェクトとしては1年が経ちました。手応えは感じています。今は1つのステージが終わりステップアップしていく時期です。今後もっと作品のクオリティを上げ、織り手、作り手、買い手がうまくつながっていきける仕組みを創り、10年ぐらひかけてきちんと事業という形にしていくのが目標です」。

あせらずゆっくり一歩ずつ！

作品展を開くたび、場所選びや交渉など1回1回エネルギーを使います。「でもネット販売などは考えていません。やっぱり人対人。ただ物売っているだけの仕事ではないことを実感しています。作品一つ一つに込められた作家の心も一緒に感じてほしいから」と片山さん。

今まで、行き詰まったり、困ったことが起きたりすると、「手づくり文化村」の仲間たちと相談し乗り越えてきました。また、ここまでやってこれたのは、やはり家族のおかげだといいます。文化村の立ち上げ時、夫に「今はお金にならないかもしれないけれど、こういう仕事がしたい」と言ったら、夫は、「面白そうだね、やってみれば。今は僕がお金を稼いでくる時期。そのうち君の仕事が軌道に乗ったら、僕が食べさせてもらう時が来るかもしれない。役割分担だね」と言って後押ししてくれたそうです。夫婦で語り合いながら飲むお酒、キャンプ、登山、野菜作り、しじみ採り等、家族との休日の時間も充実しています。

もともとキャリア志向が強かった片山さん。子どもを産まず仕事をバリバリすることに憧れを抱いていた時期もありましたが、「子どもを産んで本当に良かった。考え方がすごく変わった。昔トゲトゲしていたものも、削ぎ落とされた感じです。いろんな形の社会参画があるんだと思います」と柔らかい笑顔で語ってくれました。

最後に、「それぞれの置かれている状況や環境は違う。その時その時に、できることをやればいい。やれることは必ずある！！」と、これから一歩を踏み出そうとしている女性に心強いエールをいただきました。(2010年9月取材)

チャレンジの歩み

キャリアウーマンとしてバリバリ仕事をこなすも、結婚、出産を経て、専業主婦に

夫の仕事の都合でアメリカへ。手作り品の良さにも魅かれる子育てに対する考え方も変わる

帰国後、アメリカで見たような手作り品を自分たちでも作れないかと思い、「手づくり屋」で仕事を始める

「手づくり屋」閉店後、築きあげた「手づくり」のネットワークを捨てるのはもったいないとの思いで、「手づくり文化村」を立ち上げる



# 薬食同源の理念にもえて マコモブームの火付け役



藤牧循環器内科 薬局長

ふじまき 藤牧 けい子さん  
三重県三重郡菟野町

## プロフィール

1949年生まれ  
東京都文京区出身  
菟野町で代々続く医院を継承し、藤牧循環器内科を移転開院した夫（医師）と共に、患者さんの健康のために、診療以外の面でのアドバイスも行っている。  
休診日も補完医療としての料理、ヨガ、メディカルアロマテラピー教室を開催するなど精力的に活動し、マコモの効能を広めている。

## 藤牧循環器内科

所在地：三重郡菟野町菟野 2304  
TEL：059-393-2007  
FAX：059-393-2009

## マコモ（真菰）って何？

マコモはイネ科の仲間、太古の昔から日本各地の池や沼、川岸などに生えており、人々の食料とされてきました。新芽に黒穂菌がつくと茎が柔らかく大きくなって、白いタケノコのようになり、これをマコモタケといい食用とされています。古来から薬用として解熱や便秘、高血圧、貧血、糖尿病、骨粗鬆症等さまざまな症状に効果があるとされてきました。食物繊維やビタミン、カルシウム、鉄、ミネラルを多く含み、現代人にとってもすばらしい健康・美容食材です。また、水や空気を浄化する作用もあります。（菟野町商工会発行資料より）

菟野町では、マコモ入りのオリジナルメニューがあり、今「マコモの菟野」として町おこしされています。

## 薬学を志した理由は？

けい子さんは、東京生まれ東京育ちのお嬢さん。薬学を志したのは、生まれた時から動植物に囲まれた環境で育ったことや、少女時代の憧れを実現させたいという思いからでした。それは、幼少の頃、たった1ヶ月間でしたが、自宅にホームステイしていた、大阪大学薬学部出身のとても優しく素敵なお姉さんの存在が大きかったといいます。周囲に医療関係者も多く、女性も手に職があった方が良いという両親の勧めもあり、薬学部を選びました。

## マコモとの出会い

薬学部に進んだけい子さんは、菟野町出身の藤牧氏と出会い、なんと薬学部第1号の学生結婚をします。理系の彼女、新婚時代の料理は理科の実験の延長線上にあったので、苦にはならなかったそうです。とにかく学業と両立させながらの共同生活をスタートさせます。姓が変わり、皆の注目の的ということで、成績を落とさないようにと猛勉強の効あって無事卒業。薬剤師、臨床検査技師の資格

を取得しました。

マコモとは学生時代、父の誕生日に中華料理店で口にしたのが最初の出合いです。中国では茭白（ジャオパイ）と呼ばれ、高級食材として使われているものです。マコモダケのシャキシャキした食感を覚えました。

その後、二人の子どもが、医師、歯科医師として社会に巣立ったのを機に、2003年（平成15年）、漢方を基礎から学びたいと思い、「漢方薬生薬認定薬剤師講座」を受講しました。その時に、大学時代の恩師で現在は東邦大学薬学部名誉教授の二階堂保氏と再会します。教授から「藤牧君が住んでいる菟野町の『菰』はマコモのコモからついたんだよ。きっとどこかに自生しているよ」と教えていただきました。二階堂教授の言葉で、若き日に食べたマコモの記憶が甦りました。

本格的な研究に入ったのはそれからです。調べれば調べるほど古い歴史がわかってきました。1,000年以上も前から仏事や神事に使われていたことなどもわかりました。それは、マコモの葉の抗菌作用が強いからです。改めてすごいと思うようになりました。また、マコモを母体として創り出される耐熱菌は数百度の高熱に耐える驚異的な生命力を持っていることなど、次々と生物学的、漢方医学的な面があらわになってきました。マコモ葉はノンカフェインであることも実証しました。（東邦大学生薬学教室）

けい子さんは、「私の住んでいるところはマコモの菟野なんだ」と神様の導きのようなものを感じ、もっとこれを人々に知らせたいと思いました。そのために、まず、農家の協力を得てマコモを育てることを手がけます。当時の菟野町教育長であった大橋徳紀氏の多大なる協力を受け、450坪の土地を借り、三重県の農業改良普及センターの指導の下、キトサン、EM-X、パイロゲンを使った育て方や在来耕法でマコモ作りをしました。けい子さんは、この7年間でマコモがライフワークになったと話されます。

## 女性として

けい子さんは、一女性として、職場では藤牧循環器内科の薬剤師、家に帰れば妻であり母。マコモにかけた時間は、眠る時間を調整して行われました。診療のない木曜日や土日の午後にマコモの研究をしておられるとのこと。傍目から見ると一心に情熱を注ぎ、熱心な活動をしておられると思うのですが、本人はいたって簡単に、マコモのお茶づくりだのお菓子づくりだの、調べることだのそれが楽しいからできたのだと言われます。夜明けにむくっと起きて始めたり、来客があるから、マコモのあれもこれも差し上げたいと思って作ったり、という具合です。マコモの伝道師？といえるのではないかと思いますが、これだけ裾野が広がってきたのには、種まき人だけでなく、それを耕してくださった多くの皆様の支援があったればこそと、きわめて謙虚なけい子さんです。

## これからの夢

「薬食同源や身土不二の言葉どおり、その土地その土地の植物をはじめ健康に良いものを見つけて歴史をひも解き、健康について更に極めたいですね。

思いを止めないで、思い続けていれば夢は実現できる。時間はかかっても、いつかチャンスは向こうからやってくる」とけい子さんはきらきら目を輝かせておっしゃいます。

（2010年8月取材）

## チャレンジの歩み

学生時代にマコモダケに出合う

2003年、漢方を学んでいる時に再びマコモに出会い、研究を始め、自身でもマコモを栽培

医院で薬局長として勤務する傍ら、メディカルアロマテラピー（植物療法）を取り入れたり、薬膳料理教室を開くなど、マコモの効能を広める活動を幅広く行う



悠かなる  
まほろばの地の  
癒せよ 真菰  
菜菔 けい子

芽が出るのがうれしい！  
農業ってすごく楽しい！



河北水耕園

かわきた とも子さん  
三重県鈴鹿市

プロフィール

1948年 三重郡菰野町生まれ  
河北水耕園を夫とともに経営  
現在6棟のハウスでネギを水耕栽培し、出荷している。  
農業アドバイザーの資格を持ち、三重県女性認定農業者第1号でもある。

河北水耕園

所在地：鈴鹿市下大久保町 4199  
TEL・FAX：059-374-4566  
H P：http://co-negy.com/

生き立ちと夫との出会い

菰野町湯の山で父母と弟、妹、私の五人家族の長女に生まれました。実家は農業をしておらず、商売をしていました。私自身は県の耕地事務所の臨時職員として2年半勤めたことがあります。夫とは、18歳の時、お互いの共通の友人の紹介で出会いました。夫は団体職員で四日市農協に勤めており、私が23歳の時恋愛結婚しました。新家で親とは別に住んでいましたが、義父が病気になり、義兄も後を継がないということで夫の実家に入りました。結婚した当時、夫の実家は梨園をしていました。義父から「お前、梨をやらないか」と言われましたが、「とてもようせん」と断りました。でも、梨園が空き地になるので何かしようとも思いました。その頃は外へパートにも行き、プロッコリーも作っていたんです。収穫がパートから帰ってからの作業なので、午後2時頃から5時頃までかかります。一人ですからね。帰ってご飯の支度をしてそれから出荷です。販売は農協を通すので、私は販売するまでの作業に専念していました。しかし、プロッコリーは収穫する時少しでも雨が降るとドロドロになるし、単価も上がらない。それにアメリカからの輸入も始まっていました。もう少し楽な仕事はないかなと常に考えていました。

水耕栽培との出会い

20年位前、農業祭で初めて水耕栽培の展示をじっくりと見た時、これはきれいな仕事だと思いました。天候に左右されないので私は水耕栽培をやりたいと夫に言いました。夫もそう思ったようですが、施設をつくるにはお金がかかりますよね。夫には私にそれをやりきれるかという不安もあったようで、すぐにはOKが出ませんでした。

待ち続けた5年間

5年待ちました。夫のOKが出たらやろうとずっと心の中で思っていたんです。ゴーのサインが出て、農業近代化資金と農業改良資金を私の名義で借りました。夫は設計や設備の手続きをすべてやってくれました。一番苦労したことは、

1年目は慣れないため、ネギの苗がきれいに生えない、虫がつく、色が変わるなどいろいろなことがあって、赤字になったことです。真剣になったのはそれからです。眼の色を変えてやりだしました。一番嬉しかったことは、2年目3年目になってお金がどうにか回るようになったこと。お金は夫が管理してくれています。29年間勤めた農協をやめて、今一緒にやっています。1993年（平成5年）にハウスを2棟建てて1994年（平成6年）5月に初出荷。現在は6棟を増やして安定した出荷ができるようになりました。

やらねばならぬ

私のモットーは『やらねばならぬ』。やらなくては何もできないからですからね。あとは『今日一日がんばろう』ですかね。経営を大きくしていったお陰で安定した数量が出せるものですから、お客さまにも信頼していただけるようになりました。けれども男がやっているのと女がやっているのとは違うんですね。仲間内でのことですが、私が意見を出すと他の方に「河北さんはなんであのかあちゃんのあんな言い方を黙ってきけるのや」と夫が言われます。うちはいつでも夫と二人三脚でやっているって感じてましたし、男女共同参画って言葉も知っていました。だから、最初は仲間内の反応に戸惑いがありましたね。

これからの夢は、もうここでゆっくりしたいと思うんです。でも一方では、暇があれば、露地栽培（※1）でゆっくり野菜を育てて「みどりの大地」などへ出してみたいとも思っているのです。

チャレンジする女性へのアドバイス

したいと思う事があれば、それを思い続ける、願い続ける。そうするといつか何か前に進んでいく。でも慌ててやると勇み足となってしまい失敗につながる。農業ってすごく楽しいですよ。芽が出てくるというのがうれしいです。夢が広がっていくこともありますね。家族経営協定（※2）を結んで家事の分担もしてもらっているのですが、やはり家の中の片づけが出来ないんですよ。家事よりも畑へ行く方が楽しいです。私のいけない性格は、人に頼れないこと。自分が先に動いたら他の人もやってくれるだろうと思うんです。夫からは「それでは人を育てていない。ちゃんと指示して教えないと責任を持ってやってもらうことができない」と言われます。

夫から妻へのエール

「妻は、仕事はよくやってくれるがもう少し対外的な社交性がほしい。人とのつきあいを求めるようにいろんな所へ顔を出してほしいなあ」と夫からのエール。農業アドバイザーでもあり家族経営協定も結んでいるとも子さん。互いを尊重し、何事も話し合っているご夫婦です。

●平成22年度ベストパートナー賞の受賞おめでとうございます●



※ベストパートナー賞とは  
全国女性農業経営者会議が主催するもので、農山漁村社会において男女が対等なパートナーとしていきいきと活躍できる社会を形成していくために創設されました。  
妻の社会参画を積極的に応援し、互いを尊重して農林漁業を担っている夫に賞が授与されます。

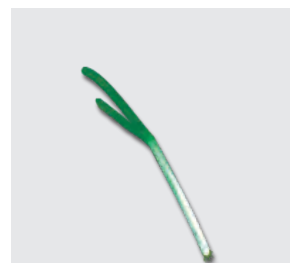
(2010年8月取材)

チャレンジの歩み

義父の梨園の替わりに何かできないかと考え、水耕栽培をやってみたく思い続ける

5年後の1993年  
2棟のハウスからスタート翌年、ネギを初出荷

現在、6棟のハウスを夫、長男とともに管理している



※1 露地栽培  
温室やフレームを用いず、露天の畑で野菜や草花を栽培すること。

※2 家族経営協定  
家族農業経営をより良いものにするために、経営方針や役割分担、家族みんなが働きやすい就業環境などについて、家族間の十分な話し合いに基づき取り決めるもの。

その時々、自分に求められていることと心算して...  
それがチャレンジにつながった



津市男女共同参画フォーラム実行委員会  
平成 22 年度委員長

さとう けいこ  
**佐藤 肇子**さん  
三重県津市

プロフィール

- ・ 1941 年 宮城県石巻市生まれ
- ・ 高校卒業後、日本硝子繊維株式会社就職し、第 2 子出産後に退職。
- ・ 1977 年 学童保育所を設立
- ・ 1987 年～ 2006 年 津市議会議員
- ・ 2007 年～ 2009 年 自治会長
- ・ 2008 年～ 新斎場建設を考える二重池団地住民の会会長

家族：夫、実母と暮らす  
趣味：旅行

とにかく色んなものに手を出して

1956 年（昭和 31 年）、佐藤さんが中学 3 年生の時、教師をしていた父親が突然亡くなり、それまで何不自由なく暮らしていた生活が一変。専業主婦だった母親は盲学校の寮母として働き始め、10 日に 1 度しか家に帰って来られなくなりました。そのため、幼い妹弟の世話をはじめ家事一切を佐藤さんが一手に引き受けることに。電気釜などなかった時代で、薪でご飯を炊いてお弁当を作ってから登校する毎日だったそうです。「自分が動かなければ妹弟は生きていけなかった」と振り返ります。

そんな生活が高校卒業後、就職するまで続いたそうです。それだけに、時間に余裕のできた就職後は「とにかく色んなものに手を出したかった」と持ち前の好奇心とチャレンジ精神を発揮します。文芸誌の編集に参加したり、労働組合の役員を務めたり・・・。特に、組合活動で培った行動力は後のチャレンジにつながっていくこととなります。

この頃、夫と知り合い結婚。第 1 子を出産後も仕事を続けましたが、第 2 子を出産後、子どもを保育所に入所させられず退職を余儀なくされます。それでも数か月後、なんとか子どもを保育所に入所させると、佐藤さんは再び働き始めました。

とにかく学童を！

夫婦共働きの中、第 1 子が小学校に入学するのを控え、友人と 3 人で学童保育所を設立した佐藤さんですが、その道のりは「本当にたいへんだった。議員になるよりたいへんだった」と言うほど困難なものでした。場所の確保の問題にはじまり、「何で勝手に働きたい人のためにつくらなあかんのや」との猛反対に遭いながらも、「とにかく設立しなければ」と奔走したそうです。その原動力となったのは、苦しかった時代の自身の体験でした——ある日、小学 1 年生の弟が、辺りが真っ暗になっても帰って来ないので探し回ったところ、5 キロも離れた母親の勤務する盲学校にいたことが判明。「弟は母恋しさにその小さな足で歩いて会



学童保育所の指導員をしていた頃

いに行ったのです。弟みたいな寂しい思いはさせたくない。だからどうしても子どもが小学校に入学するまでに学童保育をつくりたかった」と。

佐藤さんの強い思いが通じてか、小学校の校長先生が教室の使用を認めてくれたり、旅館の経営者が布団を提供してくれたり事態は好転し、1977 年（昭和 52 年）、第 1 子の小学校入学に合わせて、学童保育所を設立することができました。その後、佐藤さんは指導員として、また、三重県学童保育連絡協議会の役員として 1986 年（昭和 61 年）まで関わります。

市議会議員として

学童保育所の指導員を務めてもうすぐ丸 10 年というとき、市議会議員にならないかという声がかかったそうです。県都から女性候補者を擁立せよと、佐藤さんに白羽の矢が立ったのです。何度も断る佐藤さんに、夫は「やればいい。自分で判断すること」と背中を押してくれたそうです。佐藤さん自身も、自宅が何度も水害に遭った経験から「議員になることで少しでも早く水害をなくすることができるかもしれない」、また、「学童保育への支援も増やしたい」と立候補を決意しました。ただ、「母はめっちゃくちゃ反対した。高校生と中学生の子どもたちもすごく嫌がっていた」中での見切り発車だったそうです。

1987 年（昭和 62 年）、市議会議員として当選後、佐藤さんは、まさに「夜討ち朝駆け」で水害問題に奔走したり、女性ならではの視点で公衆トイレの環境整備を訴えたりと、2006 年（平成 18 年）まで議員を務めます。「したいことは際限なくある。その意味では達成感はない」と意欲は少しも衰えませんでした。母親が体調を崩したこともあり、市町村合併を機に辞職。このときも夫は「何とかかなる」と言ったそうですが、「子どもたちは独立し、夫も単身赴任中で、母の介護を放っておいて選挙活動ができる状態にはなかった」と出馬を断念したのです。

これから

津市男女共同参画フォーラム実行委員会の委員を務めたり、手作りの紙芝居を使って小学校で男女共同参画に関する出前授業を行ったり、地域と関わりたいと地元自治会長を引き受けたり・・・と、佐藤さんのチャレンジは続きます。チャレンジに必要なものは何かとの問いには、「熱意、前向きさ」ときっぱり。「ひとりではやれることはしれてる、人を巻き込む力が重要」とも。

そんな佐藤さんにこれからの夢を尋ねると、「夢はあきらめた」と何にでもチャレンジしてきた佐藤さんにしては意外な答え。「大学に行きたかったけれど、その夢を実現するためには何かを犠牲にしなければならない。自分の夢と、自分をあてにしてくれる人の思いとを秤にかけて、あきらめた」とのこと。「大学でなくても勉強はできるし」と屈託がなく、「大学に行っていたら、父と同じ先生になってたかも」と叶わぬ夢に思いを馳せます。

今年 12 月からは、民生委員・児童委員を引き受けるそうです。「役の重さに断り続けただけで、どうしても断り切れなくて・・・。ある意味チャレンジかな」と前向きな様子。「自分に課せられていることは乗り越えていかなあかん」「役割を果たして損することは絶対ない」「はた（周り）を楽にするから『働く』、自分が行動することで、少しでも周囲の人がよくなったと思ってもらうことが自分の喜び」とおっしゃいます。どこまでも佐藤さんのチャレンジは続きそうです。

(2010 年 9 月取材)

チャレンジの歩み

高校卒業後、就職し労働組合役員を務める

第 2 子を出産後、退職するも、数ヶ月後に再び就職

働く親を持つ子どもたちに寂しい思いはさせたくない、学童保育所を設立し、指導員を務める

津市議会議員に立候補し当選

議員を辞職後は、地元自治会長を務めるなど、地域のために積極的に活動している



市議会議員をしていた頃



小学校での出前授業の様子

誰の中にも力がある、それに気づくために  
さまざまな人と関わってほしい



子どもの本屋 **こびすくらぶ**  
店主

かやたに ちえこ  
**茅谷 千恵子**さん  
三重県松阪市

**プロフィール**

- ・1955年 四日市市生まれ
- ・短大卒業後、大学通信課程に学び、名古屋市で保育士として就職。
- ・1997年 保育士を辞め、松阪市に子どもの本屋「こびすくらぶ」を開店。

家族：夫、二男一女  
特技：どんなことにも喜びを見出すこと

**子どもの本屋 こびすくらぶ**

所在地：松阪市嬉野中川町547-1  
TEL-FAX：0598-42-8135

「こびす(COPPICE)」とは雑木林の意味。いろんな人がそれぞれの力を活かしながらかみ立てしていけば大きな力になるとの思いがこめられている。

**20歳の転機**

四日市市の兼業農家に生まれた茅谷さんは、家の前に広がる田畑など、自然の中で遊ぶのが当たり前の環境で育ちました。

大きな転機は短大生だった20歳の時。教育実習で訪れた中学校で、熱意ある指導教官と出会います。そこで「教育の可能性ってすごいな。子どもと関わる仕事がしたい」と思ったそうです。

また、「家永教科書裁判」の判例研究をしたり、環境問題を告発した生物学者レイチェル・カーソンの著書『沈黙の春』と出会ったりしたのもこの頃。表面的に見えるものだけが正しいとは限らない、自分で必要な情報をきちんと集めて本質を見抜いていかなければ判断を誤るということに衝撃を受けます。と同時に、「自分が学んだことを少しでも伝えるところがほしい、みんなで情報を交換し合って賢くなっていく場がほしい」とも。この思いが後の「こびすくらぶ」の開店につながります。

**保育士として**

短大を卒業し大学の通信課程を修了後、教員採用試験に合格するまでのつもりで、名古屋市で保育士として働き始めます。ところが、そこで素晴らしい保育を実践する先輩保育士と出会い、仕事にやりがいを感じるようになった茅谷さんは辞められなくなります。

また、労働組合の分会長として、行政との折衝などを経験しているうちに、社会に目を向けるようになっていき、「社会に向けて、何かできる機会があったら、何らかの形でやりたい」と漠然と思うようになります。

結婚し、3人の子を育てながらも保育士として働き続けましたが、40歳の時に退職します。「教えてもらったことをすべて出しきって、すごく誇れるような保育ができたから納得して辞められた」と未練はない様子。

**「こびすくらぶ」の開店 ～子どもたちに本を届けたい～**

退職金をもとに、「何かやろう」と思い立った茅谷さんは、子どもや自然と関わる仕事を始めたいと考え、たまたま、退職の2年前に図書館司書の資格を取得していたこともあり、1997年（平成9年）6月、子どもの本屋「こびすくらぶ」を開店させます。夫の理解、出版関係者との出会いなど「状況がわあーっと整ってきて、退職して3ヶ月足らずで開店してましたね」と振り返ります。

小さな店内には茅谷さんのおめがねにかなった本だけが並んでいます。18年間の保育士生活、子育てで培った経験、子どもたちからの情報が、本を見る目を育ててくれたそうです。また、店内2階では、不定期に女性向けの集会も開催しており、情報交換の場ともなっています。

「特技はどんなことにも喜びを見出すこと」と言い、「トラブルも自分に必要だから訪れたこと」ととらえる、究極のプラス思考の茅谷さん。悩みは？の問いに、「しいて言えば、もっと本を売りたいかな」と一言。大型書店に押され、小さな個人書店をとりまく状況が厳しい中、読むことによってその後の価値観を変えるかもしれない1冊を、より多くの子どもたちに届けたいとの思いからです。

**夢は魔女！？**

今後の夢を尋ねると、「60歳になったら魔女になるんです！満月の夜にはホウキにまたがって、飛ぶ練習をしているのよ」と店内にひっそりと置かれたホウキを指差します。

「何でも知りたがり屋」の茅谷さん。好奇心に突き動かされて、関心のあることならば、県外であろうとフットワーク軽く出かけていきます。

「誰の中にも力がある。それを信じて進めばいい。でも、自分の力は、自分では気づきにくいもの。だから、気づくために一歩外に出てさまざまな人と関わってみてほしい」と力強くおっしゃいます。さまざまな人との出会いによって自身の進む道を切り開いてきた茅谷さんの言葉だけに説得力があります。

そんな茅谷さんの言葉を聞いていると、「私にも何かできるかも？」「何かやらなくちゃ！」そんな気持ちになってきます。やっぱり、本物の魔女なのかもしれません。

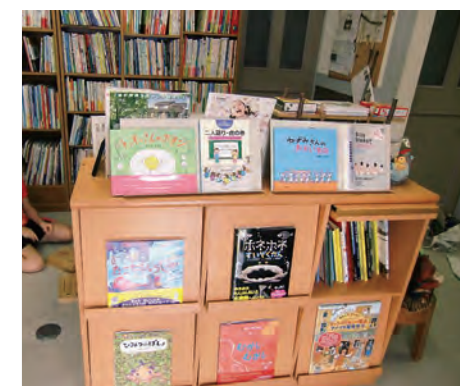
(2010年8月取材)

**チャレンジの歩み**

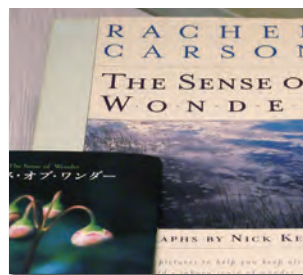
20歳の時、教育実習先で熱意ある中学教師と出会い、子どもと関わる仕事がしたいと思う

結婚、出産を経ながらも名古屋市で保育士として18年間勤める

40歳の時、保育士を辞め、松阪市に子どもの本屋「こびすくらぶ」を開店する



こびすくらぶ店内の様子



レイチェル・カーソンの著書

思ったときに行動を！  
癒しの空間をもとめて



にこばん  
店主

うえにし みき  
**植西 美貴さん**  
三重県松阪市

### プロフィール

- ・三重県松阪市生まれ
- ・短大卒業後、保育士として就職。
- ・保育士を辞め、国内外でパン職人として修行を積む。
- ・結婚、出産を経て、松阪市に「にこばん」を開店。

家族：夫、長男、次男、両親の6人家族  
特技：すぐ寝る、よく食べる、よく笑う

### にこばん

所在地：多気郡多気町丹生2433  
TEL：090-6798-9076

水・土曜日のみ開店、他にイベント開催や県外発送あり。自家製天然酵母を使用し焼き上げるパンは、砂糖・卵・バターを使わず素材にとことんこだわったもの。

### 小さい頃からの夢を叶えて

子ども好きな植西さんの、小さい頃からの夢は、保育士になることでした。一方、おばあちゃんだった植西さんの心の中には、「お人のために（なることをしなさい）」というおばあちゃんの教えがいつもありました。中学生のとき、家庭科の体験授業で保育園を訪れ、「これも人のためになる職業だな」と気づき、短大卒業後、夢を叶えて保育士となります。

子ども好きな植西さんにとって保育士の仕事は、楽しく、充実したものでしたが、頑張りすぎたせいか体調を崩してしまいます。その時、心身にストレスを抱える人が多いことに気づき、「癒しの空間を作りたい」と考えるようになります。そして、思い切って4年間の保育士生活にピリオドを打つことになりました。

### 新たな夢の実現に向けて

自分を見つめ直そうと、心配する両親をよそに、行き先も決めずに旅に出た植西さん。たどり着いたのは、長野県の軽井沢。そこで出会った酒屋の女性に、「もしや自殺志願の子？」と勘違いされますが、話をするうちに誤解も解けて、親切にしてもらったうえに、オーベルジュ&フレンチレストランでの就職の世話までしてもらいました。このホテルで、パン職人としてスタートを切るとともに、後の夫とも出会うこととなります。思い切った行動が新たな世界を開き、新たな縁を結んでくれたのです。

——さかのぼって、パンを焼き始めたのは短大時代で、その頃は趣味として焼いていた程度でしたが、いつしか趣味が夢に変わっていきます。

軽井沢で2年間働いた後、地元松阪市のレストラン、東京、さらにはフランスでも修行を重ね、本格的にパン作りへのめり込んでいきます。そんな中で、植西



にこばん店舗入口

さんが惹きつけられたのは天然酵母のパン。どっしりとして、食べごたえがあり、時間をおくほどに味わい深くなる天然酵母のパンに魅了されます。

### にこばん誕生

結婚し、長男を出産後、いったんパン職人の第一線から離れますが、その間も、自宅で親子パン教室を開くなど、楽しんでパン作りを続けます。そして、夫と子どもを連れて松阪市の実家に戻ったのを機に、知人への予約販売、移動販売から始め、本格的なパン作りを再開します。また、かつて通っていた陶芸教室の先生に請われ、そのご自宅の庭で、「パン屋さん」を開いたところ大好評！先生から「いつかアトリエを建てたら、そこでお店をしてよ」とうれしい提案をいただきます。

そしてついに2009年（平成21年）6月、陶芸教室の先生のアトリエが完成し、夢のような提案が現実のものとなりました。

「太陽の恵み、大自然の恵み」「食べたらニッコリ」がコンセプトで、店名は「にこばん」。口コミで評判が広がり、遠方からわざわざ買いにきてくれる常連さんも。「『このパンを食べると元気をもらうんさ』と言われたときが一番うれしいですね」と植西さん自身もニッコリ。まさに「人の役に立てる癒しの空間」が誕生したのです！

### 家族に支えられて

天然酵母のパンは、イーストで作るパンの3倍も4倍も手間がかかります。そのため、連日の営業はできません。営業日の前日は、21時に寝て、すぐまた23時半に起きて仕込みに取りかかります。自宅の工房でパンを焼き、そこから車で10分ほどの店へ運んで陳列・販売・片付けをひとりでこなします。そのうえ、家事・育児もするわけですが、「子どもを産んだおかげで、いい意味でゆるくなれた。独身だったら、頑張り過ぎてしまうかも」と笑います。

働く母親の姿を見ている子どもたちは「おいしくなあれ」と酵母に呪文を唱えてくれたり、「ママが寝やんと作ったパンやでいっぱい食べてな」とお客さんに宣伝してくれたりとか。スペイン料理の料理人である夫は、何よりプロの職人としての心構えを教えてくれるそうです。そして、「実家に居候状態」というほど両親のサポートも心強く、家族の支えに感謝する毎日だそうです。

### とにかく行動を！

「思ったときに行動することが大切！『言霊（ことだま）』というのがありますから、口に出して『こうしよう』と言っていると現実になっていくこともあります。人生には無駄道はなく、やってきたことはみんな今につながってくるんです」と、若いながらも頼もしい言葉が。

10年前に一度は挫折した、ある資格の取得に向けて勉強を再開した植西さん。ゆくゆくは夫と一緒にスペイン料理店を開きたいと夢を語ります。植西さんのチャレンジはまだまだ続きます。

(2010年9月取材)

### チャレンジの歩み

短大卒業後、保育士となるも、体調を崩し4年で退職

自分を見つめ直そうと、偶然たどり着いた軽井沢でパン職人となり、国内外で本格的に修行する

結婚、出産を経てパン職人の第一線から離れるも、親子パン教室を開くなど、楽しんでパン作りを続ける

実家のある松阪市へ戻り、2009年「にこばん」を開店



にこばん店内の様子

落ち込んだら損！  
今が一番楽しい。



海女小屋「はちまんかまど」  
海女頭  
野村 禮子さん

有限会社兵吉屋  
専務  
野村 薫さん

三重県鳥羽市

プロフィール

【野村禮子さん】(左側)  
1931年鳥羽市相差町生まれ。小学校卒業後、海女に。海女小屋「はちまんかまど」海女頭として、今も現役。2008年内閣府の「エイジレス・ライフ実践者」に選ばれた。

【野村 薫さん】(右側)  
1959年伊勢市生まれ。結婚を機に相差町へ。夫の建設会社、観光協会、文化振興専門員を経て、現在は鳥羽市男女共同参画推進懇話会委員、人権擁護委員を務めながら(有)兵吉屋専務として海女文化、伊勢志摩の観光振興に携わる。

有限会社 兵吉屋

所在地：鳥羽市相差町1094番地  
TEL：0599-33-6145  
FAX：0599-33-7407  
HP：http://amakoya.com

いくつになってもチャレンジ！

禮子さんは78歳、鳥羽市相差町出身の海女歴60年を超える大ベテランの海女さん。海女小屋・兵吉屋「はちまんかまど」を始めたのは、忘れもしない6年前の2004年(平成16年)3月3日、アメリカ人観光客が海女さんと話したいと、海女小屋を訪れてくれたのが始まり。その1年で700名を超えるアメリカ人が訪れた。さらに1年後の2005年(平成17年)、日本人の客としては夏休みに海水浴に訪れた人たちが「はちまんかまど」で焼いた伊勢志摩の海の幸を食べたいというので始めたのが本格的スタートだった。70歳を超えての新たなチャレンジ。感想は？「なあ、自分としては、そんなあれ(運命)に生まれるんやわなあ。主人に死なれてしもたけど、70過ぎてからこんなことになるなんて・・・」。

一方、薫さんは伊勢市出身。伊勢の建設会社に勤めていて禮子さんの長男と知り合い、相差に嫁いでこられたが、海女とは無縁の世界の女性。鳥羽市観光協会職員募集という記事につられ、今まで関わったことのない観光の世界に飛び込んだのが海女小屋・兵吉屋を始めるきっかけとなった。アメリカ人観光客が海女さんとのふれあいを希望しており、受け入れ先を探していた旅行会社から、義母が海女さんであるということで話もちかけられ、話好きの義母の「ええよ～」の一言で決まったのだった。また、マラソンの野口みずきさんがお参りされて有名になった石神さんとの関わりは2003年(平成15年)、地域活性化の観点で石神さんの祠を新しくしたとき、お守りがあったらいいなと夫婦で神社仏閣を巡り、デザインを考案。試作品を作ったところ皆さんに大好評。今ではすっかり石



神さんにも、そして兵吉屋にとってもなくてはならないものとなった。

家族みんなで海女小屋を！

41歳のとき交通事故で夫を亡くされ、夫が経営していた建設会社の後を継ぎ、社長として働かたわら3人のお子さんを育て上げた禮子さん。仕事で会議に出たり、地元の役職を数々こなす禮子さんは、薫さんが観光協会職員、県民センター文化振興専門員等、外で活動することを応援してくれた。そんな忙しい中で「海女小屋」経営。禮子さんを中心に、薫さんの夫は得意の営業活動やインターネットで協力。「海女小屋」のおもてなしまでの準備、段取りはご夫婦で協業。それまで京都で働いていた薫さんの息子さんも、ゴールデンウィークに帰省した際、家族のてんやわんやの様子を見て、「母の日」にメールで「家へ帰る」と。「家族みんなで『海女小屋』を」が実現した。

何事にもめげずに、まっしぐら

70歳過ぎて「海女小屋」を始めて以来、新聞・雑誌等メディアの脚光を浴びている禮子さん。一昨年は内閣府の賞も受賞。時には地域のしがらみや悩ましいこともあるが、応援してくれる人はたくさんいる。「落ち込んだら損や、落ち込んだらそんな人生になっていく」といつも前向きに生きている禮子さん。

薫さんも、「地域の活性化とか、地域でお金をまわす仕組みを考え、雇用や生きがいを感じるものを創り出せば、若者も必ず地元に戻ってくる。苦労もあるけどまっしぐらに進むしかない」ときっぱり。石神さんのお守りも今や、町内の多くの女性達が協力して作っており、地元にながら働きがいと収入が同時に得られたらという、薫さんの思いが少しずつ動き出している。

これからの人生の楽しみ、生きがいは？

禮子さんの人生、いつが一番輝いていましたか？

「70代からこちらやな、今が一番楽しい」。

海女の仕事が終わる9月後半から毎年海外に行っている禮子さん、親戚の多くがアメリカにいるからと、海外には臆せず出かける。海女小屋での仕事は世界中の人と会えるから楽しいとのこと。社交的でお話好きの禮子さんならでは。若い時ずっと苦勞されてきたからこそ、今を楽しめる、禮子さんの人生に乾杯！

薫さん、何かやりたいことは？

「男女共同参画だからというわけではないですが、

1. 女性の雇用と生きがいを創出すること。
  2. 次の世代の若い人を育成すること。
- これが私のこれからの人生目標です！」



(2010年9月取材)

チャレンジの歩み

●禮子さん●

小学校卒業後、海女に

海女を続けながら、結婚、出産、夫の建設会社を手伝う

夫が交通事故後、その後遺症でまもなく死去。建設会社を継ぐ

海女小屋を観光客に開放。海の幸とともに、海女文化を伝え続ける

●薫さん●

結婚。相差町へ夫が禮子さんから継いだ建設会社を手伝う

鳥羽市観光協会の職員募集に応募

三重県伊勢県民センターで文化振興専門員に

兵吉屋の活動を主としながら、「おかげまいりブランド戦略委員会」で様々な分野の有志と活動中



地域で支える子どもの「育ち」  
 子どもと一緒に楽しみたい！



こどもの体験活動をひろめる会  
 「おもしろこどもクラブ」  
 「ぐっどらっく family」代表

いしたに やすの  
**石谷 靖乃さん**  
 三重県名張市

プロフィール

東京都生まれ  
 1998年、三重県名張市へ  
 2002年から子育て支援のボランティア活動等  
 に関わる。  
 ご主人を亡くされた現在も、保育士の仕事をし  
 ながら、さまざまな形で地域の子育て支援を行  
 っている。

資格：保育士、認定心理士、親支援プログラム  
 Nobody's Perfect ファシリテーター

子育て支援を地域で

“子どもは地域で育てるもの、地域なしでは子どもは育たない” そんな思いか  
 ら地域での子育て支援活動を始めた石谷靖乃さん。最近では、地域で実施される  
 子育て支援事業も徐々に増えてきましたが、石谷さんがこの活動を始めたときは、  
 子育て支援教室が地域で開催されるのはまだめずらしい頃でした。

家族とともに名張市に移り住んだのは12年前。2002年（平成14年）、現在  
 は成人している2人の娘さんが高校生になったのを機に、子育て支援ボランティ  
 アを始めました。

最初は、公民館の生涯学習教育の一環として開催した「おじゃまるひろば」。  
 当時、公民館の講座と言えば高齢者向けの講座が主流でしたが、公民館は地域全  
 体の生涯学習の場、高齢者だけではなく子育て支援にも関わっていかねばと  
 という思いからスタートしました。

子どもたちにたくさんの体験を！

公民館の講座としてスタートした「おじゃまるひろば」。その翌年の2003年（平  
 成15年）5月には、公民館主催の家庭教育学級「おもしろこどもクラブ」も開  
 始しました。「おじゃまるひろば」は子育て支援ボランティアにより、引き続き  
 現在も公民館の子育て支援講座として開催されていますが、「おもしろこどもク  
 ラブ」は2006年（平成18年）3月にボランティア団体として独立し、自主講  
 座を開催するなどの活動を続けています。

子どもの体験活動を広める会として設立した「おもしろこどもクラブ」では、  
 子どもたちにたくさんの体験をしてもらえるよう、とりわけ、“目と耳とこころ



ぐっどらっく Family  
 活動風景

をつかう体験” “手と足と指先をつかう体験” を大切に、その体験を通じて子  
 どもと地域の“人”や“もの”がつながるお手伝いができるよう、年に5～6回、  
 講座を開催しています。

地域の里山での“秘密基地”づくり、空き地を利用した“畑仕事”チャレンジ。  
 里山での国際交流では空き缶をつかってご飯を炊いたり、ゲームをしたり……。  
 子どもたちが全身を使ってさまざまなことを体験でき、そして、人と人が出会う  
 ことによりそこからつながりができ、またいつかどこかでつながり合うことが  
 できる。最近ではなかなか経験できなくなった貴重な体験を通じて、「楽しいな、  
 不思議だな、やってみようかな」の“種”を見つけるお手伝いできたら……。  
 そんな思いで活動を続けています。

もっと楽しむ“子どもとの暮らし”

2007年（平成19年）6月には、「ぐっどらっく Family」を設立。「もっと楽  
 しく子どもとの暮らし」をテーマに、子どもがいるからこそできること、楽しみ  
 を見つけるためのヒントにと、子育て期の家族を対象にした講座を実施していま  
 す。「子育てって本当に大変。でも、そんな大変なこと見方ややり方を少し変  
 えてみるとちょっと楽しく思えたりします。子どもがいるからとあきらめてい  
 たことも、子どもがいてもできるかもしれません。子どもがいるからこそできる  
 こともあります。一度しかないこのわずかな時期をもっと楽しく暮らすためのヒ  
 ントを探すため、暮らしに身近なテーマで毎回講座を開講しています」。

思いを持ち続けることで一つひとつがつながりあっていく

「子どもが豊かな心を持っているということを感じられたときが何より嬉しい  
 い」。石谷さんは嬉しそうにそう言います。「子どもの笑顔に出会えることが楽し  
 い。さまざまな活動を通していろんな人とつながって、そうしてそれがまたどこか  
 でつながっていて、偶然会ったとき、声をかけてもらえたら嬉しい」。

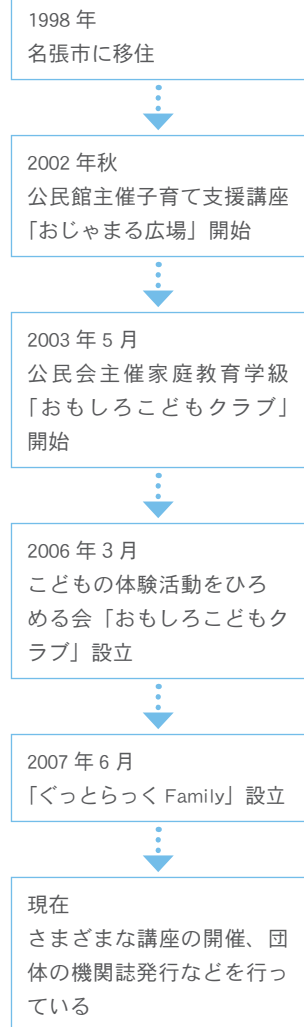
いつか、自宅に“子育てサロン”のような場所をつくるのが“夢”。自分の  
 家において、そこに地域の子どもや子育て家庭の人たちが立ち寄ってくれて、ほっ  
 とできる場所。そんな場所づくりをしたいと思います。

「大人も子どももそうですが、何かを始めるとき、最初から“何かしよう！”  
 と思わなくても、とりあえず参加してみる。そうやっていろんな事を経験するこ  
 とで、つながりが広がっていく。今、何かしなきゃ！という焦りは持たなくても  
 いい。いつか・・・という思い（願い）を持ち続けることで一つひとつの体験や知  
 り合った人たちの思いとつながり合って、必ずチャンスが自然に降ってくる。み  
 んなつながっているんです」。

石谷さんは、これからもたくさんの人、体験、場所、思い・・・いろんなも  
 のとつながりながら、子どもたちの笑顔と一緒に活動を続けていきます。

（2010年10月取材）

チャレンジの歩み



おもしろこどもクラブ  
 活動風景

NOはない！YESあるのみ！  
まずはやってみることに！



名張市農業委員  
三重県農村女性アドバイザー

みすよ  
美寿代さん  
三重県名張市

プロフィール

名張市生まれ  
兼業農家を営む  
1996年、三重県農村女性アドバイザーに任命  
2002年、名張市農業委員となる。  
現在は、担い手農家女性グループ「緑のふれあい」や「スマイル・くの一」での活動などを通じ、地産地消の推進や食育活動にも取り組んでいる。

農業女性アドバイザーとして

農家の一人っ子として生まれ、同級生の夫と結婚して40年、兼業農家としてがんばってきました。

1996年（平成8年）に三重県農村女性アドバイザーに任命され、研修会に参加しました。行き先は長野県。農業委員や審議会委員の女性進出の先進地視察ということでしたが、そこで長野の農村女性のパワーに圧倒されました。その帰り、一緒に参加した仲間達と「三重県でも何か行動を起こそうよ！」ということになり、早速、関係団体の方の協力を得て、各市の担当部署に女性農業委員をお願いにいきました。市によって反応はさまざまでした。名張市では議会推薦で3名の農業委員の枠があったので、その中に何とか女性をいれてもらえないかとお願いもしましたが、なかなか簡単にはいきませんでした。

私の初めての意思表示

2002年（平成14年）、突然、市議会議長さんから電話があり、「明日の議会で美寿代さんを農業委員に指名するから受けてくれますか？」と言われました。私は「私ですか？一度、夫とも相談しないと返事ができません」と言いましたが、議長さんは「それでは遅い。いますぐ返事が欲しい」と言われました。その時、自分自身、「女性農業委員を！」と、運動はしていましたが、「誰かがやってくれるだろう」などと考えていました。もしも自分が引き受けるとしても、家族や周りの方に相談をしてからしか決断しない、要するに自分の意思が100%でない、そういうふうについていつも人に頼ってきたことに気づきました。今、ここで「できま



せん」と返事をしてしまえば、女性の登用という絶好のチャンスをつぶしてしまうこととなります。私は決心し、「わかりました。お受けします」と答えました。

女性1人、それも初めての農業委員ということで心配もありましたが、解らないことは会議で質問したり、先輩委員に聞くことにしました。その都度皆さんは快く対応して下さい、男性だから女性だからと意識することなく活動することができました。

現在は議会推薦枠全部が女性となり、活動範囲も広がりました。昨年度より荒廃地解消対策の一つとして耕作放棄地を借り受け、他の委員の方々と一緒に開拓し、ジャガイモと大豆を作付けしました。収穫時には小学校や地元の住民の方々に収穫作業を手伝っていただき、市内の学校や保育所に給食材料として提供しました。今、ほ場ではタマネギが次の出番を待っています。

仲間と一緒に”食育創作劇”

現在、伊賀地域の農村女性アドバイザーは25名。その中で「私たちに何か出来ることは？」と相談し、食育を重点的にやっということになりました。最初は、各地区持ち回りで、種まきから収穫までの体験学習会をしていましたが、来る人が限られてきたり、今、一番来てほしい、知ってほしい子育て中のお母さんの参加が少ないという問題がありました。

そこで広く皆さんに食育を考えていただきたいと思い、食育創作劇を作りました。お米の大切さや食べ物ができるまでを知ってもらいたい、地域の旬な野菜、その野菜の大切な命を頂いているということを知ってもらいたい。そういった思いを込め創作劇を作成しました。先日、「早寝、早起き、朝ごはん」をテーマに第三作目ができたところです。私たちの想いを伝えるためには、自分たちが動かないといけないということで、農繁期を避けて、小学校や保育園、地域のイベントなど要請があれば、いろいろな所に行かせてもらっています。練習はなかなか出来なくて、移動する車の中で練習したり、アドリブでやったりしていますが（笑）。

まずはやってみることに！

農村女性アドバイザーを受けたときに「農村女性アドバイザーにはNOはない。前進あるのみ！YESあるのみ！」と言われたんです。私も、審議会委員を頼まれたり、「こういうふうなことがあるんだけど、一度お話ししてくれませんか？」とか、いろいろなお話をいただきます。その時に、迷うことがあるかもしれませんが、とりあえずまずやってみることに。そこで新しい自分が発見されたり、いろいろな事が始まっていくから。

みなさんも、与えられたチャンスは絶対に“NO”と言わずに、“YES”で前向きに行ってほしいと思います。「そんな“器”じゃない」と決め付けしないで！“器”は自分がきめるのではなく、周りが決めるものだから。

(2010年9月取材)

チャレンジの歩み

1996年三重県農村女性アドバイザーに任命

アドバイザー県外研修への参加を機に、女性農業委員の登用促進運動を始める

2002年、名張市農業委員となる

現在農業委員3期目。地域において、食育の普及活動なども行っている



82歳の今も毎日単車で奔走しています!!  
何事もプラス思考で!!



装道礼法きもの学院師範

たまつ しげえ  
玉津 志津枝さん  
三重県北牟婁郡紀北町

プロフィール

- ・1928年、愛知県名古屋市生まれ
- ・2歳で母を亡くし、親戚の住む紀伊長島町（現・紀北町）で育つ
- ・結婚後はダム開発などに携わる夫の転勤により兵庫県などで生活
- ・夫の定年退職により、紀伊長島町に戻る
- ・兵庫県在住時には寮母の傍ら、着付け教室に通い、師範の資格を取得
- ・現在もさまざまな方に着付けを教えるとともに、自身も技術向上などのため着付け教室に通っている

幼少の頃の辛い思い出

玉津志津枝さんは、現在82歳。ここ数年薬も飲んだことはないし、病院に行ったこともなく、昼は単車に乗って町内を奔走し（もちろん、安全運転です）、夜は夜中まで眼鏡も使用せず針仕事をしているという、元気で朗らかな方です。

元気の秘訣は「くよくよしないこととプラス思考、そして何を食べてもおいしいと思うから、好き嫌いがいいこと」と、朗らかに笑います。

そんな玉津さんも、2歳で母を亡くし、その後親戚のお宅を転々とされるなどの苦労をされたようです。孤独感にさいなまれ、人の顔色を見て生活する癖がついてしまったと幼少の頃の辛い思い出を吐露されました。7歳頃になってようやく紀伊長島町（現・紀北町）に居を落ち着けたようですが、その後も貧しい生活を送り、他者から随分いろいろな物をいただきようやく生活できていたようです。現在も「貧乏したおかげでもらった食べ物は絶対捨てない」とおっしゃっていました。そして、そのように他者から物をいただくなど、助けてもらったこともあって、最も大切にしていることは「頼まれたら断らない、人の役に立ちたい」ということだそうです。

1946年（昭和21年）には結婚し、その後ダム開発などの仕事に携わる夫の転勤で兵庫県などで生活され、4人の子どもを育てられました。



“着付け”との出会い

夫の転勤で引っ越した兵庫県で、知人に着物を着せてほしいと依頼されましたが、着せることができませんでした。断ることがなにより嫌いで人一倍誰かの役に立ちたいと思っている玉津さん、これをきっかけに着付け教室に通います。

当時は46歳で休暇のない寮母の仕事をされており、高校生のお子さんがみえました。週に1度、仕事の終わった午後8時に電車で大阪市の着付け教室に通い、夜中に自宅へ戻る生活が始まりました。

着付け教室に通うにあたっては、夫から「家事に手を抜かないこと、“しんどい”といわないこと、寮母の仕事を休まないこと」などの条件が出され、また夫やお子さんからのサポートも特になく、途中で挫折しそうになりましたが、その支えとなったのは、断ることがなにより嫌いで人一倍人の役に立ちたいという思いでした。

そして3年ほど着付け教室に通い、当初の「知人に着物を着せる」という目標を達成しました。

さらなるチャレンジ

一定の技術を習得した後、他者への貢献意欲の強い玉津さんは、人に教えることのできる師範の資格を取得するため、さらに努力を続けます。通信教育と月に2度の着付け教室での講義・実技を継続し、こちらも約3年で師範の資格を取得しました。

これらの努力が実を結び、地元の公民館活動の着付け講師として迎えられます。さらに、ブラジル人に着付けを教えていたご縁で、ブラジルへ渡航し着付けを披露することも経験できました。これら自分自身を表現するさまざまな機会に恵まれたのは、断ることがなにより嫌いで人一倍誰かの役に立ちたいという性格が功を奏したといえます。

82歳の現在もその向上心は衰えず、月に1度、師範の集まる着付け教室に通う傍ら、さまざまな方に着付けを教え、冠婚葬祭時には何人もの着付けを行っています。そして、「綺麗に着ている」と本人や周りの方から言ってもらえるときがこの上ない喜びであるようです。また、着付けを習ったことで「どこへ行っても自分ひとりで着物を着ることが誇り」とおっしゃっていました。

自信や誇りが持てると毎日が充実する

現在の夢は「たくさん海外旅行をしたい」と、元気で何事にもプラス思考の玉津さんらしいお答えでした。

そして、皆さんへのメッセージは、「プラス思考で、くよくよしないこと。そして、私が“着付け”に見出したように何か一つでも自信や誇りを持てると充実した毎日が送れるのではないかと」のことでした。

幼少時の辛い思い出が、その後の断ることが何より嫌いな玉津さん、人一倍の役に立ちたい玉津さんをかたちづくり、置かれた環境の中で、一日一日をプラス思考で生きていく支えになったのだとインタビューを通して感じました。そして、そんな日々の積み重ねが“着付け”という生きがいに導いたのではないかと思います。

ささやかな日々の営みがとてもいとおしく、かけがえのないものに思えました。  
(2010年9月取材)

チャレンジの歩み

知人に着付けを依頼されたが、期待に応えられず、着付け教室に通う

家事・仕事・着付け教室を両立し、「知人に着物を着せる」という目標を達成する

さらに努力し、師範の資格を取得し、公民館活動の着付け講師を務める

82歳の現在も、月に1度着付け教室に通い、技術などの向上につとめている



「安全第一」を常に心がけ、  
後世に残るものをつくっていききたい



日本土木工業株式会社  
工事部

せ こ かおり  
世古 香織さん  
三重県熊野市

### プロフィール

- ・1978年、和歌山県新宮市生まれ
- ・家族 夫
- ・資格 一級土木施工管理技士
- ・普通高校を卒業後、土木建設会社に事務職で採用された後、独学で「一級土木施工管理技士」の資格を取得し、現在は土木工事現場での現場監督として活躍されている。

### 日本土木工業株式会社

女性の採用や職域拡大などに積極的に取り組んだことが評価され、平成21年度に三重県が実施する「男女がいきいきと働いている企業」三重県知事表彰 グッドプラクティス賞を受賞。

所在地：南牟婁郡御浜町大字引作141-52  
TEL：05979-3-0303  
FAX：05979-2-0200

### チャレンジのきっかけ

世古香織さんは、地元の普通高校を卒業して、御浜町の土木建設会社に事務職として採用されました。

仕事内容を把握するため、工事現場を見学して説明を受けた際に、活気と躍動感あふれる現場の様子にすっかり魅了され、「自分も工事現場に出てバリバリと仕事がしたい」と思うようになりました。現場で仕事ができるようになるため、一念発起して二級土木施工管理技士の資格取得を目指します。専門用語や専門知識の習得は、まるで英語の勉強をするかのような感じだと言いますが、見事に独学で二級土木施工管理技士を取得しました。その努力が報われ、慣れないながらも年配の男性たちの中に混ざって、精一杯頑張る現場での毎日が始まりました。

現場では優しい仲間の方々に恵まれ、彼らに励まされ助けられながら、意欲を燃やす香織さんでした。

### さらなる挑戦

勤めていた会社の規模が縮小されることになり、それを機に、現在の日本土木工業株式会社に再就職しました。

新しく再就職した日本土木工業株式会社で、さらに仕事の幅を広げたいと、一級土木施工管理技士の資格取得を目指します。すでに現場監督として仕事をさせてもらっていたので、一級がないと満足のできる仕事が出来ないという危機感もあり、何が何でも取得しなくてはとの思いでいっぱいだったようです。危機感とプレッシャーにおしつぶされそうになる中で、猛勉強し、念願の一級の資格を取得することができました。

しかし、資格があるとはいっても全てが順調に進むということ

はなく、当初は大変な思いもたくさん味わいました。年上の男性ばかりの中で慣れない状況が続き、こちらの思いがうまく伝わらないため、現場の仕事がスムーズに進まず、悪循環の中でジレンマに陥ったりもしました。中でも、受け持った現場で災害が発生し、作業員の方が怪我をしてしまった時のことは、今でも心に辛い思いとして刻まれているようです。

そのような辛い思いや困難を乗り越えることで自身の成長も実感されているようです。何より、完成検査が終了したときには、それまで一緒にやってきた仲間の方々が、「お疲れ様」と言って、笑顔で喜んでくれる事がすごく嬉しいようです。

### 家族や周囲の人に支えられて

現場を任せてもらって5年、いつも社内の方々や現場の業者さんに、いろいろと教えていただいているそうです。そんな中、職場恋愛で今年の6月に世古勝巳さんとめでたく結婚されました。

夫とは、今まで違う現場からサポートという形での仕事はあったそうですが、現在の現場で初めて、現場代理人（夫）と監理技術者（妻）という関係で配置され、朝から晩まで四六時中同じところで働いているそうです（本人曰く、「いいのかわいのか・・・？」）。

新婚生活は帰宅時間が遅いので、家事が溜まってストレスを感じたりしているようですが、夫と家事を分担できているようで、このまま仕事も家庭も両立していけたらと思っているとのことでした。

会社は男性にも育児休暇の取得を促すなど男女共同参画の意識が高く、何かと安心できる職場環境となっているようですが、やはり夫のサポートが一番のようです。

### “男性社会”という概念にとらわれずに

現在は、橋梁の工事を担当しており、危険も伴いますがその分やりがいも実感されているようです。

座右の銘は「安全第一」ですが、土木建設会社に事務職で入り、現場を見て魅了され、興味を持って現場監督を目指したことが良かったと思っている香織さんです。

そして、皆さんへのメッセージは、「会社に今春高校を卒業した女性が、私に続いて現場職員として入社してきたことをとても嬉しく思っています。この先も女性には向かないとか、男性社会だからという概念にとらわれず、ますます後輩が増えていってくれることを望んでいます。一つの資格を取るといことが、自分の自信にもつながっていったので、今の状況を維持していただくだけではなく、何か興味があれば、どんどんチャレンジしてほしいです」とのことでした。

最後に、今後の仕事に対する夢をお聞きしましたところ、「地域社会において重要な役割を果たし、後世に残っていくようなものをつくる仕事をしていきたい」とおっしゃっていました。

(2010年9月取材)

### チャレンジの歩み

地元の普通高校を卒業して、土木建設会社に事務職として就職

工事現場の様子にすっかり魅了され、「現場で仕事がしたい。」と思い、二級土木施工管理技士の資格を独学で取得

工事現場での仕事ができるようになり、慣れないながらも、精一杯頑張る毎日を送る

さらに仕事の幅を広げるため、一級土木施工管理技士の資格を独学で取得

結婚後も周囲の人に支えられながら、現場での仕事を続け、仕事と家事を両立した充実の毎日を送っている



工事現場近くで、夫と



# お父さんは専業主夫 ～適材適所で力を発揮～

女性が社会で活躍するには、家族の理解や支援が不可欠だ。今回は番外編として、専業主夫として妻の社会進出を力強く支えている上村孝さんとパートナーの静香さんをご紹介します。



うえむら たかし  
**上村 孝さん**  
三重県伊勢市

## プロフィール

1969年 伊勢市生まれ  
1998年 公務員の静香さんと結婚  
職歴：中華料理店、部品加工およびFRP  
関連工場に勤務の後、専業主夫

## お父さんの男らしい決断！

上村さん夫妻には9歳の娘と5歳の息子がいるが、長女が生まれて静香さんの育児休暇が終わるまでは、ごくごく普通の共働き夫婦だった。しかし、静香さんが現場復帰するや、残業の多い職場だった孝さんに加えて、静香さんも休暇中のプランクを埋めるために残業が増え、昼間は孝さんのご両親に預けていた娘とは寝顔しか見られない日々が続いた。次第に、「こんな状態では子供を産んで家庭を持った意味があるんやろか」という思いがつのり、話し合いの結果、静香さんが仕事を続け、孝さんが専業主夫の道を選択することに。

孝さんは「料理は何を作っても私が作るよりおいしいんですよ」と静香さんが絶賛する腕前の持ち主。料理好きな孝さんにとって、家事をすることに抵抗はなかった。「まさか自分が専業主夫になるとは考えてもみませんでした。専業主夫を選んだことには全く後悔していません」。もの静かで一人であることの好きな孝さんにとっては、自然な選択だったようだ。

一方、人と接するのが大好きな静香さんは「好きな仕事を続けることができ、夫にはとても感謝しています。長女にも『あんたが小さい時、お父さんはすごく男らしい決断をしてくれたんだよ』と話しています」と言う。さらに、「共働きの時は、いやなことがあったら辞めれば良いと逃げ道を作っていましたが、夫の決断によって、『やるしかない』という覚悟もできました」。仕事への意欲も高まったようだ。



しずか  
**静香さん**

## 叱られても、お父さん大好き

子どもたちと向き合う時間の長い孝さんにとってしつけは大仕事で、人に迷惑をかけないことが基本だそう。普段は穏やかで優しい孝さんだが、この基本に反した行動には容赦はしない。静香さんは「そんなにきつく叱らんでも」とハラハラすることもあるようだが、「しつけは夫に任せていますので、私は子どもたちが叱られた時の逃げ場というか、つなぎ役に徹しています」と、しつけに関してもきちんと役割分担をしている。それに「いつも自分たちの世話をしてくれるのはお父さんだということはよく分かっているようで、どんなに叱られても、お父さん大好きで、いつもまつわりついています」。母としては少しさびしいのではと心配になるが、孝さんは子どもたちに静香さんが職場でどんなに頑張っているかを事あるごとに話して聞かせるなど、静香さんの活躍に細やかな配慮を忘れない。

## 感謝と思いやりで絶妙のコラボ

子どもたちの信頼は絶大の孝さんだが、一日中子どもと向き合うのは想像以上にストレスがたまるようで、「時々、大人が恋しくなります。理屈にあった話がたくなりますね」と子育ての苦勞をもらす。しかし、静香さんも2度の育児休暇で四六時中子どもと向き合うことの大変さは体験済み。「ストレスがたまってどうしようもなくなる気持ちはよく分かりますので、休みの日はできる限り私が子どもたちの相手をして、夫には外の空気を吸って気分転換してもらおうようにしています」と、静香さんも孝さんへのいたわりを欠かさない。一方、会社勤めの経験がある孝さんも、残業や飲み会等で帰宅が遅くなる静香さんのよき理解者だ。静香さんは「共働きの女性は、残業していると家のことを気にせざるを得ませんが、私は安心して幅広い分野の仕事に取り組みますので、本当に感謝しています」と言う。

また、孝さんは「社会の第一線で働くことは、いろいろなプレッシャーがあって、すごく大変です。そういう重責を背負って、家族のために頑張っている妻には感謝してもし尽くせません」と照れながら話してくれた。お互いの立場を尊重し、感謝と思いやりを忘れない絶妙のコラボレーションが、家庭円満の秘訣なのだろう。

## 脱・固定観念！

ただ「女性は家事をごく普通にこなしているのに、男性がしていると『すごい』と言われることには多少抵抗があります」と孝さん。家事も一つの仕事と考えれば、専業主夫に転職しただけ、特別視されることではないからだと言うが、まだまだ世間の専業主夫への理解度は低い。

固定観念に縛られず、家庭内で自分に適した役割を選び、生き生きのびのびと暮らしている上村さん夫婦のようなカップルが増えてほしいものである。

(2010年8月取材)



# 三重県チャレンジサポーターについて

三重県チャレンジサポーターは、地域において女性のチャレンジ支援や男女共同参画について、関係機関と連携しながら普及・啓発を進めるため、三重県が養成、配置しているものです。平成22年12月1日現在、35名の方が三重県知事から委嘱を受け、各地域で活動をしています。

この事例集は、チャレンジサポーターが、サポーター活動のひとつとして作成したものです。各地域で「起業」「キャリアアップ」「まちおこし・地域活性化」「ボランティア」などさまざまな分野で活躍している女性たち取材し、事例集としてまとめました。

## 三重県チャレンジサポーター(平成22年12月1日現在)

	市町名	名 前		市町名	名 前		市町名	名 前	
桑員	桑名市	高橋 淑子	津	津市	小林 小代子	伊賀	伊賀市	岡森 敬美	
	桑名市	田原 そのみ		津市	山岡 勝江		伊賀市	片岡 佐代	
	いなべ市	門脇 よしゑ		松阪市	菅原 潤子		伊賀市	松尾 紀子	
	東員町	山崎 まゆみ		松阪市	森島 鈴美		名張市	植野 あさ子	
三 四	四日市市	石田 寿賀子	松阪	明和町	世古 小夜子	紀北	名張市	高木 裕美子	
	菰野町	山下 欣子		明和町	山 川 孝		紀北町	松生 茂子	
	朝日町	水谷 春美		大台町	西村 民幸		紀南	熊野市	田岡 陽子
	朝日町	山本 淑子		伊勢市	大田 真寿美			御浜町	温 千奈美
	川越町	寺本 詩野		伊勢市	山本 はるみ			紀宝町	上地 弘美
	川越町	寺本 由美		南勢志摩	鳥羽市			濱口 和美	総員：35名
鈴鹿市	寺井 和子	鳥羽市	広野 克子						
亀山市	一見 八郎	志摩市	石野 好乃						
鈴 亀	亀山市	佐野 孝子		南伊勢町	山本 眞壽美				

※県内を9地域にわけて、取材等を行いました。

# 県内情報

## ○市町長インタビュー (P 28～)

住民に最も身近な基礎的自治体である市町が、男女共同参画や女性のチャレンジ支援を積極的に進めるためには、市町長のリーダーシップが不可欠です。

インタビューを通じて市町長が男女共同参画や女性のチャレンジへの思いを公表することで、

- ・その自治体の男女共同参画行政の推進に寄与する
- ・女性のチャレンジ支援のための環境づくりに取り組む
- ・地域住民の意識を男女共同参画へ向ける

きっかけとするために実施しています。

## ○三重県内の主なチャレンジ支援機関 (P 38～)

県内には、三重県が設置する「みえチャレンジプラザ」をはじめ、チャレンジを支援するさまざまな機関があります。

女性のチャレンジ支援を、三重県のあらゆる分野において推進するためには、民間や各種関係機関との連携が欠かせません。

三重県では、各種関係機関等からなる「みえチャレンジネットワーク」を形成し、チャレンジ支援のための情報交換や連携強化をはかっています。

(平成22年12月現在、30の団体・機関と連携)

### インタビュー

2010年9月1日 まつだなおひさ 松田直久津市長へ、小林小代子・山岡勝江チャレンジサポーター（津市在住）から男女共同参画に関するインタビューを行いました。

#### ★津市における男女共同参画の現状

**小林** 平成18年1月に10市町村が合併して新しい津市になり、今年で5年目を迎えます。男女共同参画を推進するために、津市ではこの5年間どのように取り組んでこられましたか。

**市長** 2市6町2村の全国でも非常に大きな合併でした。平成18年2月に市長に就任して以来、「元気な津市づくり」を目指してまちづくりに取り組んできましたが、このようなまちづくりには、男女が



松田直久市長

互いに支え合いながら個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会の実現が重要になってくると思います。津市では、平成19年3月に男女共同参画都市宣言を行うとともに、津市男女共同参画推進条例を施行しました。また、同年7月に男女共同参画に関する市民意識調査を実施し、その結果を踏まえて平成20年7月には条例に基づき男女共同参画基本計画を策定するなど、男女共同参画推進に向けてさまざまな施策に取り組んできました。その結果、昨年度、基本計画に掲げる各施策の取組実績への総合評価として、津市男女共同参画審議会から「ある程度進んだ」との評価をいただき、一定の成果につながっていると感じています。しかしながら、私としては、まだまだ不十分であると感じており、津市の「住みやすさ」に磨きをかけるべく、これからも社会情勢の変化に対応した施策を継続して実施していくことが大切であると考えています。

**小林** 私は芸濃地域に住んでおりますが、「女は出るな、男でないとあかん」といった風習が今でも残っています。他の地域ではどうでしょうか、男女共同参画意識に関して、地域間で違いのようなものはあ

りますか。

**市長** やはり地域間で違いはあると思います。そこで、各地域の男女共同参画意識の向上のために、昨年度は芸濃や白山地域などでセミナーを開催しましたし、今年度は、安濃地域で三重県男女共同参画連携映画祭を実施するなど、さまざまな地域で啓発事業に力を入れております。また、今年度の男女共同参画フォーラムは、初めて安濃地域で開催する予定です。さまざまな地域で取り組むことで、男女共同参画意識についても一体感の醸成につなげていきたいと考えています。

#### ★職場・家庭・学校での男女共同参画

**小林** 市民意識調査の結果をみても、やはりまだまだ「男女共同参画」という言葉自体十分に知られていないという問題があります。私はチャレンジサポーターとしての活動や、男女共同参画フォーラム、津市男女共同参画情報紙「つばさ」を通して、男女共同参画という言葉や津市で頑張っている女性を広く知っていただけるよう紹介しています。実は私自身、会社に入社した当時は、賃金面をはじめ男女の格差を色々感じておりましたが、自分なりに精一杯努力した結果、今では高速道路のサービスエリアの支配人という職を任せられています。社会全体が女性に対する認識を変え、女性をもっと活躍できる場所をつくるのが大切だと思います。津市でも女性職員の方をもっと活用していただきたいと思いますがいかがでしょうか。



小林サポーター

**市長** 津市では教育長としては初めて女性が登用されましたが、まだまだ女性幹部や管理職は少ないと

いうのが現実です。なぜそうなのかということをきちっと見極めていかなければならないと思います。市役所の中でも、女性職員が活躍している実例やその体験談を、報告したり発表したりできる場を設けて、より女性職員が活躍できる環境づくりができればいいなと考えています。

**小林** 余談ですが、私どものサービスエリアで販売する津ぎょうざ（※1）が大好評なんですよ。

**市長** そうですか！ぜひ津を代表する食べ物として、全国に発信するとともに、市の活性化にもつなげられたらいいなと期待しています。ちなみに、僕、餃子なら1分間に50個包めますよ。津ぎょうざみたいな大きい餃子は無理ですけどね、こう、きゅっと握ってね。

**小林** えっ！？そうなんですか！そうすると、市長のご家庭での男女共同参画は進んでいるようにも見受けられますが、どうですか。

**市長** いやいや。僕は料理が好きですので、いろいろ作りますけど、それぐらいかな。妻からは散らかしっぱなしにして片付けのほうがいへんなんやでと言われてます。でも、3人の息子たちは、料理でも洗濯でも何でもやりますよ。

**山岡** 確かに、子どもたちって素直に、男子女子の区別なく、仕事の選び方や、家での手伝いだとか、そういうものを自然体で受け入れてますものね。私は、手作りの紙芝居を使って小学校へのお出前授業を行っておりますが、そういう子どもたちの姿を見ると本当にうれしくなります。市長は、学校での教育についてどのように考えておられますか。

**市長** 大人になっていく間に、社会の風習や色々なもので、知らず知らずのうちに、男女の格差とか差別につながっていくという部分があると思いますので、子どもに対する教育というのは、非常に大切だと思います。その点、紙芝居は、文字じゃなくて絵から自然に男女共同参画になじめるという意味では、子どもに対する教育効果が高いと感じます。昨年度の「男女共同参画に向けての社会づくりの全国

会議」でその紙芝居の取組が好評を得たと伺いましたが、そういった取組が広がっていけばいいなと思っています。

#### ★子育て支援とワーク・ライフ・バランス

**山岡** 子どもに対しては紙芝居で啓発を行っていますが、では、大人に対しては何があるかなと考えて取り組んだのがこのトイレマップ（※2）です。これは、三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」の助成金で、津市が事務局となって市民で結成された「子育て応援隊」が作成したものです。男女共同参画の視点で進めるまちづくりというテーマで何に取り組もうかなと考えていたところ、父親が子どもを連れてトイレに行くときに、オムツを替えるところがなかったり、わからなかったりしてたいへんという話を聞きまして、これを作ることを思いつきました。私自身、膝を痛めたときにこのマップがとても役に立ちましたが、子育てしやすいまちはみんなが住みやすいまちですから、市長のおっしゃる「元気な津市づくり」につながったんじゃないかなと思っています。夏の暑い時期にひとつひとつ現地を調査するのはたいへんでしたが、とても楽しく取り組みました。



山岡サポーター

これからもこんな楽しい事業があったらいいなと思うほどです。

**市長** また一つ津市の「住みやすさ」の向上につながったと感謝しています。こういった取組は、みなさんに楽しんで参画していただくのが一番です。ぜひ、この取組が、また違う形で波及していけばいいなと思います。今後も男女共同参画の視点で進めるまちづくりについてさまざまな活動に取り組まれることを期待しています。

**小林** 男女共同参画社会の実現には、子育て支援とともに、ワーク・ライフ・バランスの実現も大事な

※1 直径15cmの大きな皮で餡を包み、油で揚げたぎょうざ。

※2 オムツ替えシート、ベビーチェアのあるトイレや授乳室などを持つ施設の情報を掲載した地図。

## インタビュー

2010年10月12日 木田久主一鳥羽市長へ、濱口和美・広野克子チャレンジサポーター（鳥羽市在住）から男女共同参画に関するインタビューを行いました。

と思いますが、市長はどのように考えておられますか。

**市長** ワーク・ライフ・バランスから、話が飛ぶかも知りませんが、「環境経営」という言葉があるんですよ。いわゆる環境にやさしい社会を求めることによって、経営的にも長期的に見れば非常に効果があり有益であるということです。少し話が違いますが、ワーク・ライフ・バランスも、男女共同参画もそうではないかと考えています。それらを実現することで、社会の機能とすれば、非常にいい効果を出すんじゃないかな、まちの元気につながるんじゃないかなと、実はそう思っているんです。これからは、ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画を進めたら、例えば企業においてはこんな効果ができましたよ、家庭においてはこんないいことがありましたよと、というような実例をしっかり示していかなきゃいけないと思っています。

### ★さいごに

**小林** 男女共同参画施策というと、費用対効果が見えにくいところがあると思いますが、確実に推進していく必要があると思います。今後津市における男女共同参画をどのように進めていくお気持ちですか。

**市長** 確かに、市民の皆さんからいただいた税金をいかに効果的に使わせていただくかは、とても重要なことです。市民意識調査を実施して、その結果で効果を測るというのもひとつの方法ではあります。しかしながら、男女共同参画施策については、やはり一進一退みたくないところがあって、なかなか数字だけでは分からないこともあります。それでも、10年前20年前と比べたら、徐々に進んできているという感覚はあります。僕は、男女共同参画推進の基本となるのは、やはり意識、男女共同参画意識を持つことだと思っています。意識改革は、時間がかかりますが最も必要なことではないかと考えます。市役所内にしても、担当部局だけが男女共同参画施策をやっていけばいいということではなくて、それぞれの部局、それぞれの課で、さらに言えばそれぞれの個人で男女共同参画意識を持って施策を推



進していくべきだと考えています。津市では、「住みやすさ」に磨きをかけるために、さまざまな施策に取り組んでいきますが、男女が互いに支え合い、ともに個性と能力を発揮することができる社会を目指すという男女共同参画の考え方は、どの施策にも通じる重要な要素です。男女共同参画を推進していくことは、津市をより住みやすいまちにしていく大きな力にもなると考えていますので、着実に取り組んでいきたいと考えています。

### ～取材を終えて～

サポーターとして市長にインタビューさせていただくことができ大変うれしく思っています。男女共同参画に対する地域間での違い、現在の取り組みなどを聞かせていただくとともに、市長を身近に感じられるお話も聞かせていただき、明るく和やかな雰囲気でお話させていただきました。本当にありがとうございました。

#### チャレンジサポーター 小林 小代子

多忙な公務の中、時間をいただいたインタビュー。緊張していましたが、市長のぎょうざ作りの話で場が一気に盛り上がり、リラックスできました。物腰やわらかな語り口の中にも津市を元気な県都にしたいとの強い思いを感じ取ることができました。私たち女性が元気で輝けるまちこそが、その目標ではないかと。楽しんで活動することでより多くの人を巻き込むことができると確信しました。

#### チャレンジサポーター 山岡 勝江

### ★鳥羽市第2期男女共同参画基本計画

**広野** 市長が言われる「小さくても真珠のように輝く鳥羽にしたい」というスローガンがとても素敵ですが、鳥羽市の第2期男女共同参画基本計画（通称ほほえみプラン）の中で、特にここを強調したいところを、お伺いできればと思います。

**市長** 日本はかつて大変な男尊女卑だった時代がありましたが、現代はまったくそういう差別のない世界にしていかなければならない、そのことを一番の目標だと思っています。すべての市民の皆さんに理解されるよう働きかけるとともに、市の内部においても全くそういう差はありませんし、女性の活躍には人一倍私自身が期待しているところです。



木田久主一市長

### ★女性の登用

**広野** 具体的に女性を積極的に登用している部門などはありますか。

**市長** 女性には各部門ですごく頑張ってくださいますが、管理職の女性比率が何%かと問われるとつらいところがあります。私としてはもっと女性の活躍する場所を増やしたい、女性の管理職を増やしたいと常々思っています。ただ私が期待をしても、管理職になる前に辞めてしまう女性も多く、現状ではあまり成果は出ていないところです。

**濱口** 私が勤めていた企業でも、管理職の女性比率が世界各地の支社の中で日本が最低でした。そこでトップダウンにより、1998年から5ヵ年計画で、同じレベルの男性と女性だったら、女性をプロモーション（推進）させ、意図的に女性管理職

を増やすということをしました。民間企業だからできたことかもしれませんが、市長は女性管理職を増やすため、意図的な動きは考えられませんでしたか？

**市長** 今まで考えたことはなかったですね。本来なら男性でも女性でも同じ能力のある人には同じようにチャンスがないと不公平だという考え方が一般的だと思います。しかしそれをしないと現状が改善されないという考え方でその企業がやられたことは、一歩進んでいるのかなと思います。

**濱口** 当時は逆差別だという意見も出ましたが、女性が管理職をするというのはまだ慣れておらず、男性の中で女性が1人というのでは気後れすることもあると思います。そこで直属の上司ではなく、部門外のところから適宜アドバイスし相談を受けるといったメンター（良き指導者・助言者）制度が作られました。そのような人がいることで、本人もマネジメントする立場の仕事をしてみたいという気持ちになってくると思います。やはり環境は大きいです。今後、女性の管理職を考えていただく上では、このような制度もいいかなと思うのですが。

**市長** 課長補佐くらいの年代になってきた女性は、次はチャンスももらえるというより、白羽の矢がたって大変なところに行かなければならなくなるような気になっている気がしていました。お聞きしたような形で良い方向にいくのであれば検討して、可能なことならやりたいと思います。

**広野** 私も仕事をしていて、もう駄目だと思ったことは何度もありましたが、チャンスを与えてもらったのに逃げてしまうのは嫌だなと思い頑張り



濱口サポーター



ました。今でも会社でのいろんな経験がすべてプラスになっています。頑張れば何かあるよ、ということは女性にも知ってもらいたいですね。

### ★産業の活性化

**広野** 私は今、観光ガイドボランティアを目指して、修行しているところです。市長は「多くの人々が訪れ楽しめるまちづくり」を目標のひとつにかけておられます。観光産業は女性の力が発揮しやすいところだと思いますが、どうお考えですか？



広野サポーター

**市長** 観光産業において女性の力は大きいと考えています。それを活用しようとする以前に、鳥羽では既に女性の力が大きくなってきています。私が思うに、鳥羽には3人の女性カリスマがいます。うめの蕾会、海島遊民クラブの江崎貴久さんは、エコツーリズム大賞をとられて、エコツーリズムの全国大会を今年鳥羽市で開き、今後は世界大会をここで開こうとされています。そして、答志島をはじめ離島の生活や自然を題材にしたツアーを企画して多くのお客様さまに喜んでいただいている「島の旅社」の山本加奈子さん、この方は大阪から嫁いでこられた人です。もう1人はバリアフリーツアーセンターの野口あゆみさん。車椅子で旅行に行きたいと思っている方に安心して来てもらえるようにしようと、日本でも先駆的に取り組んでおられます。この3人の女性はものすごく頑張っていて、全国的には私より有名ですよ。観光が中心であるだけに、他の地よりは鳥羽市は女性が活躍していると思っています。

**濱口** この前、鳥羽市と協働して行っている「ライフスタイルを考える講座」では、神島の藤原朋代さんにお話を伺いました。前向きに島の生活をエンジョイしてみえて、元気づけられました。

**広野** 活躍している女性はまだまだたくさんいるので、横のつながりを持てると、もっといいですね。

**濱口** その一方、観光ということで旅館やホテルなど女性の働く場は多いものの、臨時雇用やパートタ

イマーといった正規雇用ではない形で働く人が多いのではないのでしょうか。女性がこういう働き方でいいのだろうか？と思うのですが、どのようなご意見をお持ちですか。

**市長** 鳥羽に限らず日本全国で、男女に関わらず正規雇用が減り、臨時的な雇用が増えている状況は日本の活性化を考えると、とてもマイナスです。ただ、鳥羽市では最近毎年1回、4～5月に新卒就職者の歓迎会を開いていますが、正規雇用でホテルや旅館、観光施設等に採用された人が多く、圧倒的に女性が多いです。このような方々はキャリアを積まれていくと思いますし、昔に比べて女性が臨時的に働くこと以外の道に進むことが多くなるのではないのでしょうか。

### ★町の活性化

**広野** 鳥羽市では「海辺のまち鳥羽出逢い応援事業」で、若い人の定住促進をすすめておられますね。町を元気にするには、若い人たちが住みやすい町でないと難しいと感じますが、その点はいかがですか。

**市長** 人口を維持していく一番の要因は仕事だと思います。特に若い人に人気がある第2次産業の企業があれば、人口は増えますが、鳥羽市は平野や丘陵地が少なく、企業誘致が難しい。住宅という視点でのベッドタウン化も土地の問題から難しい現状です。そこで、子育てしかなないと、力を入れてきました。まず三重県内で最初に中学3年生までの医療費無料化を行いました。第2弾は2人目の子どもの保育料無料化です。第3弾は今考えていますが、このような子育て支援を行うことで、少しでも皆の力で子どもを育てるということを認識してもらいたいと思っています。財政的には厳しいですが、少子高齢化の中で、老人福祉もやりながら、ここを目玉にしたわけですね。たとえ1人でも2人でも、鳥羽で子育てしたほうが得だと感じ、残っていただければと思って、実施しています。

**濱口** 子育て支援も含めて、若い世帯の人に住宅を提供するといった施策を行ってみるところもあると聞いています。空き家等も活用できないかと思ったりしているのですが。

**市長** 長野県の南部の町では、新婚の家庭に新しい住宅を安い料金を提供することで、人口を維持したという話もあります。空き家は古いため、提供するなら改造しないと難しいと思いますが、そのような考え方も含め、いいアイデアを活用し、検討していかなければと思います。そこで鳥羽市では「とばっこカード」事業を行っています。このような事業を市町単位で実施する自治体は全国でもほとんどありません。18歳以下の子どもを2人以上育てている世帯の方が、協賛事業所でこのカードを提示し利用すると、様々なサービスを受けられる仕組みです。うまく活用すると大きく発展する可能性はあると思っています。

**広野** 町中にある空き家を壊して新しくするのはなく、昔のレトロな感じを残して鳥羽の良さを守っていただきたいと思います。また地域性を大事にして、お年よりも子どももいろんな人がまどまどしていれば、新たに心のつながりができてくるのではないかと思うのですが。

**市長** 高齢化率が50%を越えた地区も出てきています。それぞれの地区にあった考え方で、皆さんのアイデアをもとに、一緒にコラボレーションしてやっていきたいと思っています。

### ★家庭での男女共同参画

**広野** 市長のご家庭での参画はいかがですか？

**市長** 私が市議会議員になったときに、鳥羽に男女共同参画の窓口もないと妻に指摘され、窓口の設置に動きました。そういう意識は彼女も強いし、私もその影響を受けたところがあると思います。私の場合は、家庭は両方で同じようにやるというより、受け持ちがあると思います。実際には少しでもやろうかということで、朝、コーヒーを入れる、お風呂を洗って湯を入れるのは私の仕事ですね。食器の洗い物も私ができるだけするようにしています。

**濱口** 身内の方で男性が育児休業をとられたとお聞きしましたが、どうのお気持ちでしたか？

**市長** 育児休暇をとると聞き、それはいいじゃないかと思いましたね。子育ての大変さもわかりますし、私も子どもが出来たらとるところですが、もうでき



ませんのでね。もちろん鳥羽市役所内で育児休業を取ろうという職員がいたら応援しますよ。それより民間では女性でもまだ育児休業がとりにくい現状があることを懸念しています。お金が伴いますので無理なことはいえませんが、子育て支援や人口減問題は役所の仕事というのではなく、民間の人たちにも一緒に考えてもらいたいと思います。鳥羽の未来のためにも皆さんに育児休業はとってもらおうようにしなければいけませんね。

### ～取材を終えて～

日ごろの我々の思いを市長は丁寧に受け止め、率直に答えてくださり、男女共同参画にはとても理解を示していただいているというさわやかな印象を受けました。私が事例としてお話ししたメンター制度に関心を持たれたようで嬉しく、これから鳥羽市に管理職になりたいという女性職員がどんどんでてきてくれることを願っています。

チャレンジサポーター 濱口 和美

様々な課題を抱える状況下で、市の活性化のために多様な施策が実施されていることに驚き、市長の並々ならぬ情熱を知ることができました。男女共同参画に対する市役所内の取組にも、市長の柔軟な考え方に頼もしく思います。個人的には「多くの人々が訪れ楽しめるまちづくり」のお手伝いができればとの想いを新たにしました。

チャレンジサポーター 広野 克子

### インタビュー

2010年10月25日 小山 巧 南伊勢町長へ、山本眞壽美チャレンジサポーター（南伊勢町在住）から男女共同参画に関するインタビューを行いました。

#### ★女性の町政参画

**山本** 女性がいろんな場面に参画していくことは、大事だと思います。町長は施政方針の中で各種委員会等への女性の参画率40%を目指すとしてみえますが、目標の達成状況はいかがですか。

**町長** 私が町長になって1年近いですが、教育委員会では委員5人のうち、2人は女性に就任していただき、女性の参画率40%を達成しています。他にもたくさん審議会等がありますから、長期的に取り組んでいきたいと思っています。



小山町長

ただ、女性の参画率が何%という数字だけでなく、女性がこれまでの経験を活かして発言できるよう、政策立案の場の運営も十分に考えて行かないと、本当の男女共同参画は進みにくいと思っています。それには互いに意識を変えていく必要もありますので、町政説明会を38地区全部で開き、意見交換しながら、少しずつ変えていくことが大事だと思っています。

**山本** 説明会等に参加する人は男性が多いと思いますが、そこに女性を参加させていくための工夫は何か考えてみえますか？

**町長** 参加しやすい時間帯に会を開催することも重要ですし、まず女性が家庭の中で家事を多く担っている中、時間を確保すること自体が難しいかもしれません。そこは男性がどう代わりに家事を受け持つかで解決できるかもしれませんが、そもそも若い方は男女ともに仕事や家庭、子育て等でとても忙しく時間がないため、そのような場に出てくる機会が少ないですね。そこでお年寄りや、定年を迎えられた方が出てこられる場合が多いの

ですが、会場に男女半々出てこられても、男性が前、女性が後ろに座られます。意見をいう場合も同じで、このように染み付いているところもあるように感じます。

しかし南伊勢町は高齢者の単身世帯が全6500世帯のうち約1300世帯あり、町民約16,000人のうち、女性の方が1,000人ほど多いという状況です。そのような状況下で町民が安心してしあわせに暮らせる町をどうやっていくか考える上では、女性もいろいろなアイデアや経験を持っておられますので、是非その意見をいただきたいのです。これからの町民生活のためには、女性の意見も男性の意見と同様に必要だということを常に言って、女性の参画を増やしていく必要がありますね。

**山本** そのような場で発言することは大変ですが、そこを女性ががんばると、町政を進めていく上でいろいろな意見が聞けていいと思います。ただ男社会が根強く残り、新しいことを始めようとする、地域の目を感じることもあると思いますが。

**町長** そこは自分で自分を縛っているところもあるかもしれませんが。町としては女性も男性もともに意見が言いやすい雰囲気を作れるように努力したいと思っています。そのためにはさまざまな検討をする場に、まず女性にも40%入ってもらう必要があります。そこで発言することに慣れていただくことで、地域の中でも積極的に発言できるようになるのではないのでしょうか。

#### ★高齢化と地域づくり

**山本** 私も姑や実母が90歳近くになり、やっと介護問題を自分のこととして捉えられるようになりました。県内で最も少子高齢化が進むこの町で、今後どのように取り組もうとお考えですか？

**町長** 人数的にはお年寄りも減るのですが、若い人がそれ以上に減るため、全体の人口が減少する中でお年寄りの人口比率が高くなるというのがこれからの南伊勢町の状況です。皆さんが最後まで元気にいきいきと生活できる社会をどう作っていくかが大事ですから、健康、医療、介護予防事業を進めていき、病院にかからなくていい、施設に入らなくてもいい人を増やすことが必要です。また、夫婦や隣近所で助け合っていく上でも南伊勢町の町民は全員介護技術を学びたいとも思っています。施設も必要ですが財政上の問題もありますし、できるだけ在宅でがんばりたいという方もみえますので、施設も含め、在宅介護を支える訪問医療、訪問介護を系統的に作っていきたくて考えています。

**山本** 私も仕事として、健康・寝たきり予防に関わっています。介護が必要な人がたくさん生まれてしまうことが問題で、元気に1人でも生活できればいいのです。介護技術の習得とともに、高齢者の方が生きがいを持ち、健康でいきいきと過ごせる町を目指していただきたいと思っています。



山本サポーター

**町長** そこが大事で、誰しも自分が必要とされているという意識があることが一番いきいきしますし、それはいつまで現役でいられるかということです。海や山に出て現役というのがありますが、その町の中で自分がどう必要とされ、自分に何ができるのか、これから考えていただきたいと思っています。そこで、南伊勢町では今年の8月から課長級を除く町職員全員を38地区いずれかの地区の担当にし、各地区の課題は何で、これからどうしていけば皆が安心安全にしあわせに暮らせるかを一緒に話し合う場をもっています。自分たちの手で町を作っているという意識にその地域の人があれば、それこそが生きがいだと思うのです。自分が皆のため、町のために何をするか、それこそが町政への参画であり、その芽は既にありますが

ら、ここに活路を見出そうとしています。

**山本** お年寄りも必要とされていないと、ひきこもりがちになってきますが、自分が必要とされ、人のために何かできるとなると、前に出ようとする力も出てきますよね。

**町長** そういう時に力を発揮するのは、人に声をかけ、交流し対話するのが上手い女性なのです。女性がその力を発揮されると、もっと良くなり、変わってくると思います。

**男女共同参画・NPO室** そういった地域づくりの場面に男性と女性が半々いるということは必要だと思うのですが、現実ではどうですか。

**町長** ある地区では役員会に必ず婦人会のメンバーも入っていると聞きますし、そういった場に女性が結構入ってきていると思います。そのような良い事例を紹介していくのも役場の大切な仕事の一つですし、役場の職員もこれから経験を積みながら、女性の力をうまく引き出すコーディネート力をつけることは大切だと思います。職員が地域づくりのコーディネート力を蓄え、住民の方々に力を発揮してもらえる場を作れるようになるには時間はかかると思いますが、そこは町民の方々にも理解していただき、一緒に育ててもらいながら、育ちあってもらいたいと思います。

#### ★雇用、働く環境づくり

**山本** 南伊勢町では水産関係で仕事がある地区もありますが、全体的に仕事がないと聞きます。また核家族化で子どもの面倒をみてもらう人がいないため働けないという人もいました。雇用をとりまく問題についてはどのようにお考えですか。

**町長** 雇用の問題は若者定住という意味でも大切です。今は男性でも働く場がない状況ですが、南伊勢町の女性の就業率は県内で一番低いです。その原因として町内に仕事がないとともに、町外へも働きに行きにくい環境があるのではないかと思います。昨年度保護者の方にアンケートを実施したところ、やはり働きにくい上で必要な早朝・延長保育などへのニーズがありました。働く場の確保も大事ですが、それには働ける環境が整っているこ

とも重要です。そこで、昨年度から一部の保育所で早朝保育を始めました。

また、小学生のための放課後児童クラブも南伊勢町にはありません。過疎により小学校が統合されていますから、学校から帰って各地区で学童保育をできないかと考え、第1号を町民文化会館の一角に作り、開始する予定です。放課後児童クラブは共働きの親等のために子どもを預かるとともに、少子化の中で子ども達の仲間づくりの場としても必要です。そこで一緒に遊びながら関係性ができれば、成長して町外に一度出ても、仲間がいると地元に戻ってきやすくなりますので、若者の定住策としても必要です。このようなことを考えながら、少しずつ進めているところです。



#### ★さいごに

**山本** 自治体の男性首長が育児休暇を取得することが最近話題になっていますが、町長ご自身はご家庭でどう共同参画されてみえましたか。

**町長** 私たち夫婦は共働きで、当時は産前産後休業制度しかなく、子どもがゼロ歳の時から保育所に預けました。子どもが夜中に泣き出した時は、抱いてミルク作りもしていましたよ。洗濯などはしていましたが、仕事が忙しい時期が多く、また子どもが好きというのもあって、家事より子どもと遊ぶことが多かったかもしれませんね。

この町の方も夫婦で一緒に船に乗り、海で作業をする方もみえますし、農業も同じで、一次産業では昔から夫婦で共同参画していますよね。

**山本** うちの姑もそうでしたが、私より上の年代の女性は男性と同じように畑仕事や海の仕事もし

ながら、家事はすべて女性がやっていました。これからは「家事は女の仕事」ではなく、家事も皆と一緒にやるんだよという流れになればいいと思いますね。

**町長** 今の子どもたちは男女ともに家庭科の授業で料理を作ったりしているので、家事をやることに抵抗はないですね。それと例えば海の仕事でも朝早く漁に出る場合は、海へ出る人と家にいる人といった役割分担になります。男性と女性がすべて一緒のようにできるかということ、そう出来ないところもあるかもしれません。一つの家庭や社会をどう作っていくか考える場合には、役割分担と共同ということセットで考えていく必要があると思います。それにはお互いの立場を理解しあい、助け合う社会を作ることが重要で、それが男女共同参画社会につながるのでしょうか。

**山本** 子どもの教育という点からいえば、一度外から自分の町を見ることも大事だと思います。子どもたちに帰りたいと思わせるような南伊勢町にしていく力の一つになればと、私もチャレンジサポーターを引き受けさせていただきました。

**町長** 自分達がまずやらないといけない、という思いを持つ方はたくさんみえるので、サポーターとして皆さんとそのような話をしながら、大きい動きにさせていただけると有難いですね。

#### ～取材を終えて～

チャレンジサポーターとなってまだ4ヶ月の私に、いきなりの町長インタビューでしたが、あっという間に時間が経ってしまいました。

三重県で最も高齢化が進んでいる南伊勢町が、どんどん活性化して、町民一人ひとりが元気でいきいき暮らせる町にしていくためにも、男女共同参画意識を、もっともっと高めていく必要があると感じました。私もまだまだ勉強不足ですが、できる事から始めて、仲間を増やしていくことができればいいと思います。

チャレンジサポーター 山本 真壽美

## 今回インタビューを実施した市町



鳥羽市

2010年10月12日



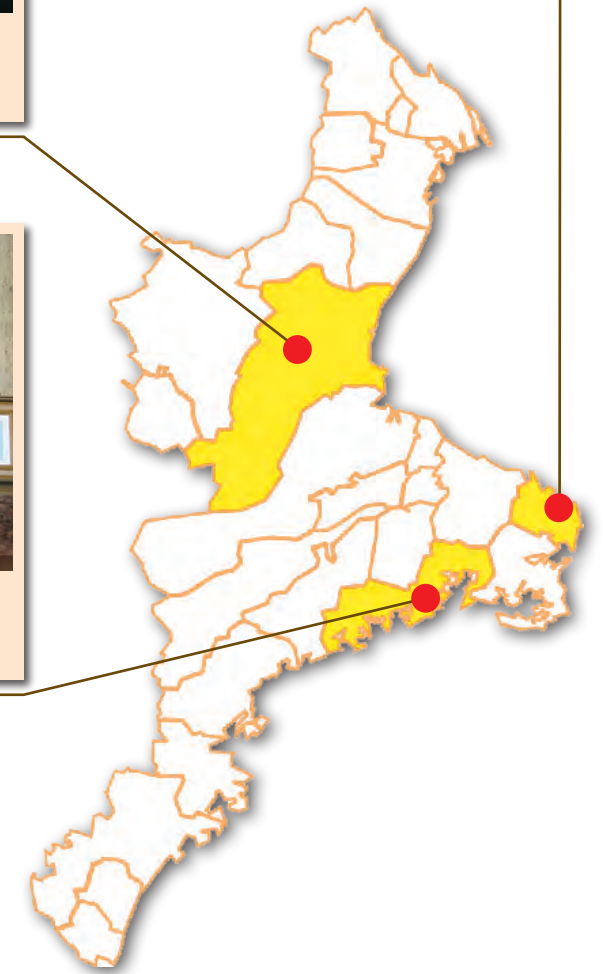
津市

2010年9月1日



南伊勢町

2010年10月25日



# 三重県内の主なチャレンジ支援機関

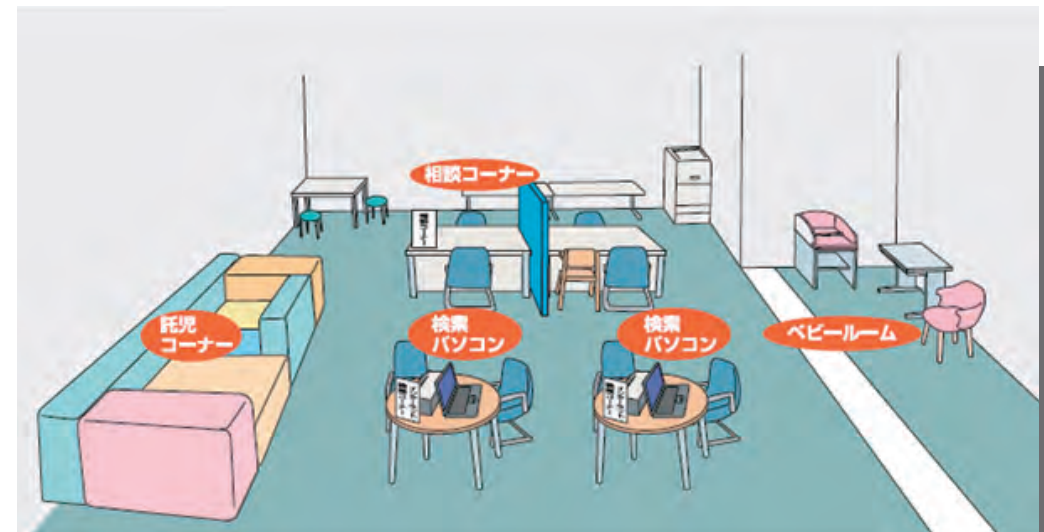
全国には、女性のチャレンジを支援する数多くの機関があります。  
ここでは、三重県内でチャレンジを支援している主な機関を紹介します。

三重県内の主なチャレンジ支援機関一覧								
	機関名	チャレンジメニュー						ページ
1	みえチャレンジプラザ	●	●	●	●	●	●	39
2	三重県商工会議所連合会（商工会議所）			●				40
3	三重県商工会連合会（商工会）			●				40
4	三重県中小企業団体中央会			●				40
5	三重県経営者協会	●						41
6	三重労働局職業安定課（ハローワーク、マザーズサロン）	●						41
7	三重労働局雇用均等室						●	41
8	財団法人 21 世紀職業財団三重事務所	●					●	42
9	独立行政法人雇用・能力開発機構三重センター	●	●	●				42
10	社団法人三重県専修学校協会		●					42
11	放送大学三重学習センター		●					43
12	三重県公民館連絡協議会		●			●		43
13	三重県農業協同組合中央会				●			43
14	三重県漁業協同組合連合会				●			44
15	財団法人三重県農林水産支援センター				●			44
16	日本労働組合総連合会三重連合会	●						44
17	社会福祉法人三重県社会福祉協議会					●	●	45
18	財団法人三重県母子寡婦福祉連合会						●	45
19	社団法人三重県看護協会						●	45
20	三重県私立保育連盟						●	46
21	三重県私立幼稚園協会						●	46
22	三重県PTA連合会					●		46
23	みえ市民活動ボランティアセンター					●		47
24	三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」					●		47
25	三重県立図書館	●						47

- 働きたい
- キャリアアップ・スキルアップしたい
- 起業したい
- 農林水産分野で活躍したい
- ボランティア・NPOなど地域で活動したい
- 育児・介護の支援サービスが知りたい

※ 「どこに相談したらいいかわからない」、「初めての相談で不安を感じる」といった場合は、  
まず「みえチャレンジプラザ」（TEL 059-356-0239）にご相談ください。

1	みえチャレンジプラザ
所在地	〒510-0067 三重県四日市市浜田町 4-20 J A 三重四日市ビル6階
TEL/FAX	TEL : 059 (356) 0239 FAX : 059 (356) 3955
ホームページURL	<a href="http://www.oshigoto.pref.mie.jp/connect/challpla.html">http://www.oshigoto.pref.mie.jp/connect/challpla.html</a>
E-mail アドレス	challpla@pref.mie.jp
業務概要 設置目的	意欲のある女性等が、就業をはじめとした社会参画をできるようにするために三重県が設置し、チャレンジに関する情報提供やチャレンジ相談員（キャリアカウンセラー）によるアドバイスなど、相談者の状況に応じて必要な支援を提供しています。 設置しているパソコンを使って、チャレンジに関するインターネット情報検索や、エクセル・ワードの自己学習、適職診断をすることができます。 「みえチャレンジプラザ」では、お子様連れでも安心してご利用いただけるように、相談コーナーから見える位置に「キッズ・託児コーナー」を設置しているほか、授乳やオムツ交換ができる「ベビールーム」もあり、相談中の託児サービスを受けることもできます。



2	三重県商工会議所連合会（商工会議所）
所在地	〒514-0004 三重県津市栄町 1-891 三重県合同ビル6階
TEL/FAX	TEL : 059 (227) 1666 FAX : 059 (223) 1877
ホームページURL	http://miepfcci.pro.tok2.com/
E-mail アドレス	miepfcci@quartz.ocn.ne.jp
業務概要	商工会議所は、地域の商工業者の世論を代表し、商工業の振興に力を注いで国民経済の健全な発展に寄与するための地域総合経済団体です。三重県商工会議所連合会は、商工会議所が「その地区内における商工業の総合的な発展をはかり、兼ねて社会一般の福祉増進に資する」という目的を円滑に遂行できるよう県内の商工会議所を総合調整し、その意見を代表している団体で、中小企業振興、地域振興、情報化推進、国際交流など多岐にわたる事業活動を行っています。

3	三重県商工会連合会（商工会）
所在地	〒514-0004 三重県津市栄町 1-891 三重県合同ビル6階
TEL/FAX	TEL : 059 (225) 3161 FAX : 059 (225) 2349
ホームページURL	http://www.mie-shokokai.or.jp/
E-mail アドレス	kenren@mie-shokokai.or.jp
業務概要	商工会は、「商工会法」に基づき設立された特別認可法人で、地区内の商工業の総合的改善発展をはかるとともに、社会一般の福祉の増進に資することを目的として公共性に富んだ事業活動を行っています。また、小規模事業者の相談・指導を行っています。

4	三重県中小企業団体中央会
所在地	〒514-0004 三重県津市栄町 1-891 三重県合同ビル6階
TEL/FAX	TEL : 059 (228) 5195 FAX : 059 (228) 5197
ホームページURL	http://cniss.chuokai-mie.or.jp/
E-mail アドレス	webmaster@chuokai-mie.or.jp
業務概要	「中小企業連携で“みえの元気”を育てます」をモットーに、中小企業連携組織及び中小企業の振興・発展をお手伝いしています。組合をはじめ、任意グループ、共同出資会社、社団・財団法人等の中小企業連携組織を通じて、はばひろく中小企業の経営をサポートしています。

5	三重県経営者協会
所在地	〒514-8691 三重県津市丸之内養正町 4-1 森永三重ビル3階
TEL/FAX	TEL : 059 (228) 3557 FAX : 059 (228) 3710
ホームページURL	http://miekeikyo.jp/
E-mail アドレス	info@miekeikyo.jp
業務概要	労働問題、労務管理、労使関係の専門機関として幅広く労働・社会・経済問題に取り組み、企業経営、人事労務の諸問題に関する情報の提供や会員参画による行政への提言活動を行なっています。また、インターンシップ事業・地域団塊世代雇用支援事業など、厚生労働省の委託事業にも積極的に取り組み、活力ある地域経済社会の実現、企業の相互発展のために活動しています。

6	三重労働局 職業安定課（ハローワーク マザーズサロン）
所在地	〒514-8524 三重県津市島崎町 327-2 津第二地方合同庁舎内
TEL/FAX	TEL : 059 (226) 2305 FAX : 059 (227) 4331
ホームページURL	http://www.mie.plb.go.jp/
業務概要	県内各地のハローワークにおいて、求職者に対する職業紹介や職業指導、雇用保険の適用・給付・雇用助成サービス等を行っています。また、ハローワーク四日市には、子育て期の女性の就職等を支援する「マザーズサロン」が設置されています。

7	三重労働局 雇用均等室
所在地	〒514-8524 三重県津市島崎町 327-2 津第二地方合同庁舎内
TEL/FAX	TEL : 059 (226) 2318 FAX : 059 (228) 2785
ホームページURL	http://www.mie.plb.go.jp/
業務概要	職場における男女の雇用機会均等の確保や、セクシュアル・ハラスメント、職業生活と家庭生活の両立、パートタイム労働者の雇用管理改善等の問題について相談に応じています。

8	財団法人 21 世紀職業財団三重事務所
所在地	〒514-0004 三重県津市栄町 2-380 HOWAビル津5階
TEL/FAX	TEL : 059 (228) 2300 FAX : 059 (228) 2304
ホームページURL	http://www.jiwe.or.jp
E-mail アドレス	Fvbn8190@nifty.com
業務概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>働く女性の活躍支援 女性管理職の増加をめざすポジティブ・アクションを推奨します。</li> <li>仕事と生活の両立ワーク・ライフ・バランスの実現 働く人々の価値観の多様性を踏まえた働き方の実現に貢献します。</li> <li>短時間労働者と正社員との均衡待遇の推進 パートタイム労働者のモチベーションを高め、能力発揮に資する条件整備を支援します。</li> <li>ハラスメントのない職場づくり 多様な人々が働く職場を快適なものとするための取組を応援します。</li> </ol>

9	独立行政法人雇用・能力開発機構三重センター
所在地	〒510-0943 三重県四日市市西日野町 4691
TEL/FAX	TEL : 059 (321) 3171 FAX : 059 (322) 2890
ホームページURL	http://www.ehdo.go.jp/mie/index.html
業務概要	求職中の方を対象に、建築CAD、インテリア・福祉住環境コーディネーターをめざした住宅リフォーム技術科や機械CAD、NC工作機械の操作及びプログラマーをめざしたテクニカルオペレーション科等の6ヵ月間の訓練を行っています。いずれも、キャリア・コンサルティングを行い、早期安定就労を支援しています。

10	社団法人三重県専修学校協会
所在地	〒514-0008 三重県津市上浜町 1-293-4
TEL/FAX	TEL : 059 (229) 4070 FAX : 059 (229) 4069
ホームページURL	http://www.inetmie.or.jp/~miesk/
業務概要	「三重県専修学校ガイド」により、三重県内の各専修学校を分野別、地域別に紹介しています。

11	放送大学三重学習センター
所在地	〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234 三重県総合文化センター内
TEL/FAX	TEL : 059 (233) 1170 FAX : 059 (233) 1179
ホームページURL	http://www3.center-mie.or.jp/~u-air/
E-mail アドレス	ouj@center-mie.or.jp
業務概要	放送大学は、ケーブルテレビなどの放送を通じて授業を行う通信制の大学で、自宅にいながら勉強を進めることができます。開講科目は 300 科目以上あり、自分を磨いてキャリアアップしたい、教養を高めたい、学術的な関心を追求したいといった方は、お気軽にご相談ください。1 科目から学べるほか、所定の単位を修得することで大学卒業の資格もとれます。授業料が安価なのも魅力です。

12	三重県公民館連絡協議会
所在地	〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234 三重県生涯学習センター内
TEL/FAX	TEL : 059 (231) 1187 FAX : 059 (231) 1190
ホームページURL	http://sankouren.com/
E-mail アドレス	sankouren@nifty.com
業務概要	三重県内の公民館活動の普及および振興並びに公民館相互の連絡提携をはかり、生涯学習の推進、社会教育の充実発展および文化の向上に寄与することを目的として、公民館大会や研修会の開催、研究集会等への参加、公民館に関する情報の提供などの事業を行っています。

13	三重県農業協同組合中央会（JAみえ女性連絡会議）
所在地	〒514-0004 三重県津市栄町 1 丁目 960
TEL/FAX	TEL : 059 (229) 9238 FAX : 059 (228) 2852
ホームページURL	http://www.jamie.or.jp/miechuokai/
E-mail アドレス	kurashi@jamiechuokai.jp
業務概要	各JAでは、組合員や地域の生活・文化の向上に向けた各種事業を実施しています。 また、JAみえ女性連絡会議では、力を合わせて女性の権利を守り、社会的・経済的地位の向上をはかるため、女性の参加・参画を進め、女性の声を反映させたJA運動の実践、女性の共同活動によるゆとりとふれあい・助け合いのある住みよい地域づくりをめざしています。

14	三重県漁業協同組合連合会
所在地	〒514-0006 三重県津市広明町 323-1
TEL/FAX	TEL : 059 (228) 1200 FAX : 059 (225) 4511
ホームページURL	http://www.miegyoren.or.jp/
E-mail アドレス	info@miegyoren.or.jp
業務概要	食糧産業としての使命を自覚し、さまざまな事業に取り組んでいます。近年では、環境保護に対する取組を最重要テーマと考え、「海と川を美しくする運動」や「漁民の森造成事業」を漁業者とともに取り組んでおり、より良い漁場づくりを推進することで、安全で良質な水産物を安定的に供給できるよう、日々努力を続けています。また、漁業者の立場を基本に一般消費者や他産業の方々との海とのかかわりも視野に入れ、新たな可能性について挑戦し続けています。

15	財団法人三重県農林水産支援センター
所在地	〒515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530
TEL/FAX	TEL : 0598 (48) 1225 FAX : 0598 (42) 8221
ホームページURL	http://www.aff-shien-mie.or.jp/
E-mail アドレス	info@aff-shien-mie.or.jp (財)三重県農林水産支援センター) ninaite3@aff-shien-mie.or.jp (就業相談)
業務概要	農林漁業就業者の確保・育成、就農支援資金や林業就業促進資金の貸付、林業の雇用改善促進、経営・法人化対策、農地保有合理化事業や機械・設備のリース事業による基盤強化対策、農用地の造成など、農林水産業を職業として選択し、地域の担い手として定着するまでの各段階において、必要な支援を効果的・一元的に提供するとともに、農林水産物の需要拡大や新製品の開発などを支援しています。

16	日本労働組合総連合会三重県連合会
所在地	〒514-0004 三重県津市栄町 1-891 三重県勤労者福祉会館 2階
TEL/FAX	TEL : 059 (224) 6152 FAX : 059 (223) 3633
ホームページURL	http://www.jtuc-rengo.jp/mie/index.html
E-mail アドレス	http://www.jtuc-rengo.jp/mie/mail.html
業務概要	三重県内の労働組合が集まって作っている組織で、連合運動は中央・地方・地域が一体となって運動を進めています。「ゆとり・豊かさ・社会的公正」をめざした政策づくりや、働く者の雇用や権利を守るために活動を進めています。また、産業・業種・地域を越えた連帯を強化し、連合本部とともに一体的運動を進めながら、当該地方の課題についても積極的に取り組んでいます。

17	社会福祉法人三重県社会福祉協議会
所在地	〒514-8552 三重県津市桜橋 2-131 三重県社会福祉会館内
TEL/FAX	TEL : 059 (227) 5145 FAX : 059 (227) 6618
ホームページURL	http://www.miewel-1.com/
E-mail アドレス	kikaku@miewel.or.jp
業務概要	三重県における社会福祉事業やその他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達および社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進をはかることを目的に、各市町を通じた広域的な見地から、社会福祉を目的とする事業従事者の養成および研修、社会福祉を目的とする事業の経営に関する指導および助言、各市町社会福祉協議会の相互の連絡および事業の調整などを行っています。

18	財団法人三重県母子寡婦福祉連合会 (三重県母子家庭等就業自立支援センター)
所在地	〒514-0003 三重県津市桜橋 2-131 三重県社会福祉会館 4階
TEL/FAX	TEL : 059 (228) 6298 FAX : 059 (228) 6301
ホームページURL	http://www.za.ztv.ne.jp/boshikafu/
E-mail アドレス	boshikafu@za.ztv.ne.jp
業務概要	母子家庭や寡婦の方々の方々の自立と生活安定のために、就業をはじめ生活全般にわたる相談等を実施しています。職業紹介、就業支援講習会の開催、母子自立支援プログラムの策定などの就業支援、一時的なケガや病気などで生活に支障ができたひとり親家庭に支援員を派遣する日常生活支援事業、弁護士相談事業や母子家庭等に関する各種施策・事業等の紹介を行っています。

19	社団法人三重県看護協会
所在地	〒514-0062 三重県津市観音寺町字東浦 457-3
TEL/FAX	TEL : 059 (225) 1010 FAX : 059 (226) 5200
ホームページURL	http://www.mie-nurse.or.jp/
E-mail アドレス	mie@nurse-center.net
業務概要	地域看護活動および専門職としての研鑽をはかり、県民の健康と福祉の増進に寄与することを目的に、地域住民への看護サービスや、ナースセンター事業、看護職員の教育研修、看護業務に関する調査研究・普及啓発などの活動を行っています。

20	三重県私立保育連盟
所在地	〒514-8552 三重県津市桜橋 2-131 三重県社会福祉会館内
TEL/FAX	TEL : 059 (225) 7852 FAX : 059 (225) 4289
業務概要	私立保育園相互間の提携、協力によって民間保育事業の健全な発展をはかり、児童福祉の向上に寄与することを目的に、保育制度向上に関する事業、研修、調査研究、福利厚生、広報・出版などの活動をしています。

21	社団法人三重県私立幼稚園協会
所在地	〒514-0008 三重県津市上浜町 1-293-4
TEL/FAX	TEL : 059 (227) 3004 FAX : 059 (227) 3026
ホームページURL	<a href="http://www.mie-shiyou.com/">http://www.mie-shiyou.com/</a>
E-mail アドレス	sanshiyou@zb.ztv.ne.jp
業務概要	幼児教育の重要性と教育の発展をめざして、各種研修会の開催や教育研究大会・教員研修会への積極的な参加を通じて、教員の教育力向上に取り組んでいます。

22	三重県PTA連合会
所在地	〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234 三重県生涯学習センター2階
TEL/FAX	TEL : 059 (233) 1163 FAX : 059 (233) 1164
ホームページURL	<a href="http://www.miepta.com/index.html">http://www.miepta.com/index.html</a>
E-mail アドレス	mie-pta@pcs.ne.jp
業務概要	PTAは、県内各地の小学校や中学校におけるPTA活動を通して、社会教育、家庭教育と学校教育との連携を深め、青少年の健全育成と福祉の増進をはかり、社会の発展に寄与することを目的とした社会教育関係団体です。

23	みえ市民活動ボランティアセンター
所在地	〒514-0009 三重県津市羽所町 700 アスト津3階
TEL/FAX	TEL : 059 (222) 5995 FAX : 059 (222) 5971
ホームページURL	<a href="http://www.mienpo.net/center/">http://www.mienpo.net/center/</a>
E-mail アドレス	center@mienpo.net
業務概要	アスト津3階の「みえ県民交流センター」を拠点に、市民活動の場や交流の機会の提供を行い、情報誌の発行やホームページ等によるNPO活動に関する情報の受発信などのNPO支援を行っています。男女共同参画・子育て・女性の働き方に関するイベント・セミナーの情報をお寄せ下さい。チラシ情報コーナーやホームページ等で広く県内外に広報させていただきます。

24	三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」
所在地	〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234
TEL/FAX	TEL : 059 (233) 1130 FAX : 059 (233) 1135
ホームページURL	<a href="http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/">http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/</a>
E-mail アドレス	frente@center-mie.or.jp
業務概要	男女共同参画社会実現のため、人材の育成、情報の受発信、相談、男女共同参画を推進する人たちの活動や交流の拠点となることを目的に、多様な事業を行っています。「女性のチャレンジ」に関しては、女性のエンパワメント講座の実施や、情報コーナー・ホームページ・情報誌などでの情報の受発信等もっており、学習ツールとしてご利用いただくことができます。

25	三重県立図書館
所在地	〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234
TEL/FAX	TEL : 059 (233) 1180 FAX : 059 (233) 1190
ホームページURL	<a href="http://www.library.pref.mie.lg.jp/">http://www.library.pref.mie.lg.jp/</a>
E-mail アドレス	mie-lib@library.pref.mie.jp
業務概要	三重県立図書館では、館内の「ビジネスサポートおしごとコーナー」にて、就職や企業、仕事に役立つ図書・雑誌をまとめて配置するほか、新聞記事・企業情報など様々な情報収集に役立つオンラインデータベース、図書館の司書が調べ物のお手伝いをするファレンスサービスをご利用になれます。関係機関のパンフレットや県内全域のハローワークの求人情報も設置しています。



# 「みえチャレンジサイト」は チャレンジしたい女性を応援します!

※「みえチャレンジサイト」では、主な支援機関や講座・イベントの情報のほか、さまざまな分野で活躍している女性の事例など、チャレンジに役立つ情報を掲載しています。



「何から始めたらいいんだろう」  
「はじめの一步を踏み出すのが不安」  
「どこに相談したらいいのかわからない」と思ったら

<http://www.pref.mie.lg.jp/CHALLENGE/>

「みえチャレンジサイト」で検索してください。

三重県

私たちのチャレンジの軌跡

